

熊本大学教育学部附属幼稚園  
における組織評価  
自己評価書

平成30年9月30日  
20.教育学部附属幼稚園



## 目 次

I	熊本大学教育学部附属幼稚園の現況及び特徴と目的.....	1
II	管理運営の領域に関する自己評価.....	3
	1. 目的と特徴.....	4
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出.....	5
	3. 観点ごとの分析及び判定.....	5
	4. 質の向上度の分析及び判定.....	14
III	教育研究支援の領域に関する自己評価.....	15
	1. 目的と特徴.....	16
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出.....	16
	3. 観点ごとの分析及び判定.....	17
	4. 質の向上度の分析及び判断.....	21
IV	初等中等教育の領域に関する自己評価.....	22
	1. 目的と特徴.....	23
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出.....	23
	3. 観点ごとの分析及び判定.....	24
V	男女共同参画の領域に関する自己評価.....	33
	1. 目的と特徴.....	34
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出.....	34
	3. 観点ごとの分析及び判定.....	35

## I 熊本大学教育学部附属幼稚園の現況及び特徴と目的

### 1 現況

- (1) 学校名：熊本大学教育学部附属幼稚園
- (2) 園児数及び教員数（平成 30 年 5 月 1 日現在）
  - ：園児数 132 人
  - ：教員数 専任教員数（現員数）6 人、非常勤教員数 6 人 事務職員数 1 人 合計 13 人
  - ：学級数 年少 1 年中 2 年長 2 合計 5 学級

### 2 特徴

- (1) 本園の使命と特色
  - ① 教育学部の教育実習生を受け入れ、幼児教育の理論と実践について指導を行う。
  - ② 本学部が設定する目標の実現に向けて、教育内容及び運営面の充実を図る。
  - ③ 幼児教育についての研究を深め、教育の質の向上を図り、国公立幼稚園をリードする。
  - ④ 未就児保育や長期休業中の園庭開放等を実施し、家庭の教育支援も含めた地域の幼児教育センター的な役割を担う。
  - ⑤ 本園の園児は、入園調査実施要項に基づいて調査を行った結果の合格者である。
- (2) 本園の教育目標
  - ① 健康で明るい子ども
  - ② 自分の力を出しきって遊ぶ子ども
  - ③ 考えたり工夫したりする子ども
  - ④ 誰とでもかかわりをもって遊ぶ子ども
  - ⑤ 思いやりのある子ども
- (3) 本年度の重点目標
  - ① 子どもの保育の充実  
子ども一人一人の理解に努め、発達と特性に応じた保育に努めるとともに、幼稚園教育要領に基づいた教育課程について研究を深める。
  - ② 教職員の資質向上  
諸研修会への参加、園内研修の充実を図り、教職員としての基本的資質や実践的指導力の向上を目指す。
  - ③ 保護者への支援と啓発  
今日的な課題と保護者の思いを把握し、子育て支援を充実させる。
  - ④ 園児数の確保  
地域への子育て支援や本園の特色や教育方針の啓発を図り、子育て支援を充実させる。
  - ⑤ 教育実習の充実  
幼児教育指導法や実習を工夫し、幼児教育の理解を深めることができるようにする。
  - ⑥ 保育環境の充実  
遊具を充実させるとともに、園庭や裏庭の環境整備を行い、子どもの遊びが広がるようにする。
- (4) 研究テーマ  
「学をつなぐ教育課程 ～幼児期にふさわしい評価の在り方を探る～」
- (5) 沿革史
  - 大正 5 年 5 月 熊本市立壺川幼稚園創立、同時に熊本県女子師範学校代用附属幼稚園となる。
  - 昭和 4 年 3 月 熊本県女子師範学校代用附属幼稚園が廃止となる。
  - 昭和 6 年 4 月 熊本市立手取幼稚園と壺川幼稚園を合併し現地に熊本市立千葉城幼稚園ができる。
  - 昭和 15 年 4 月 熊本県に移管、熊本県女子師範学校附属幼稚園となる。
  - 昭和 17 年 4 月 附属幼稚園園則制定

昭和 18 年 4 月 県から国に移管し「熊本師範学校女子部附属幼稚園」と改称。  
昭和 22 年 4 月 熊本大学熊本師範学校附属幼稚園と改称。大学の附属教育機関となる。  
昭和 26 年 4 月 熊本大学教育学部附属幼稚園となる。  
昭和 26 年 6 月 6・26 大水害、園舎復旧工事のため現在の城東小にて保育 園舎復旧工事  
昭和 39 年 5 月 園歌制定  
昭和 46 年 12 月 新園舎完成 園舎壁面に園児作品を元に岡周末教授デザインによるタイル絵完成  
昭和 60 年 4 月 同窓会設立  
昭和 61 年 5 月 70 周年記念式典・記念事業  
平成 8 年 5 月 80 周年記念式典・記念事業  
平成 18 年 5 月 90 周年記念式典・記念事業  
平成 26 年 4 月 大規模園舎改修を終え、新園舎完成  
平成 28 年 11 月 創立 100 周年記念式典・記念行事  
平成 29 年 3 月 創立 100 周年キリンさんすべり台設置

### 3 組織の目的

- (1) 教育学部の教育実習生を受け入れ、幼児教育の理論と実践について指導を行う。
- (2) 本学部が設定する目標の実現に向けて、教育内容及び運営面の充実を図る。
- (3) 幼児教育についての研究を深め、国公立幼稚園をリードするとともに、公開保育や各種研究発表会等で研究成果を私立幼稚園や幼保連携型認定こども園、保育所等にも広めて、幼児教育の質の向上に寄与する。
- (4) 未就児保育や長期休業中の園庭開放等を実施し、家庭の教育支援も含めた地域の幼児教育センター的な役割を担う。

## Ⅱ 管理運営の領域に関する自己評価

## 1. 目的と特徴

熊本大学教育学部附属学校幼稚園は、大正5年に熊本県女子師範学校代用附属幼稚園として創立され、昭和26年に熊本大学教育学部附属幼稚園という現在の名称とされた。園地は1525坪。現園舎は平成25年8月に大規模改修され、平成26年4月に完成した。平成27年から本格実施される子ども子育て支援制度に対応できるよう、相談室や絵本の部屋を設置した。2クラスある年中と年長の保育室は、オープンスペースで子どもが伸び伸びと遊べる空間を確保し、必要に応じてパーティションで区切る等多目的に利用できるよう工夫されている。

管理運営の領域は、上記敷地と園舎の施設・設備、ならびに職員14名（兼任を含む）、園児132名である。教職員の勤務時間は午前8時30分から午後5時15分までで、保育時間は午前9時10分から午後1時30分までである。教育課程は、幼稚園要領に則り、環境、言語、表現、健康、人間関係の五領域を通じた環境の構成と保育者の援助を工夫して編制されている。特に自然環境に恵まれた広い園庭を利用し、伝統的な行事や自然体験、食育を重視した特色ある編制を工夫している。

以上の施設・設備、園児・教職員、教育内容について、法令や規則に基づき、教育目標が達成されているかどうか、管理の目的である。

特徴として以下のとおりである。

- ①研究園としての体制や組織が整っている。
- ②教員養成の教育学部附属園であるために、学生の実習環境が整っている。
- ③大学学部並びに四附属学校園連携が強化されており、PTAの親睦交流も盛んである。
- ④市街地にあつて、自然に恵まれた園舎環境である。
- ⑤不審者進入や自然災害に対応できるよう、警備体制を整え備蓄品の確保や備蓄倉庫を備えている。

### [想定する関係者とその期待]

大 学：教員養成機関として施設や設備を整備し、教育実習生の指導の充実を図る。

保護者：施設や設備が充実し、安全・安心な園舎にて質の高い教育を願う。

地 域：災害用施設として、地域住人の避難地として利用できる。

市教委：人事交流をとおして、教員の資質向上と市立幼稚園、小学校を中心としたの教育の活性化を図る。

## 2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

### 【優れた点】

保育に係る園舎内外の施設・設備は新園舎の完成により充実し、より質の高い保育が提供できている。また、警備体制を強化するとともに、園内での避難訓練の実施や危機管理マニュアルの策定、保護者への啓発等も含め、さらに危機管理の体制が充実した。正門、駐車場門に防犯カメラを設置し、24時間の監視が可能となった。以前は外部からの不審電話や、休日明けの駐車場門周辺の飲食物のゴミや汚物の放棄が多々あったが、平成26年度以降はそのような被害は無い。

学校評議員会における評価の中で、園児数確保のための改善案を受けて募集要項を見直したこと（車の通園を許可し通園可能な範囲を熊本市外にまで広げたこと、入園説明会の回数を増やし願書受付期間を長くしたこと、未就園児の体験登園を増やしたこと等）により、平成27年度の園児募集説明会には10年ぶりに100人を超す110人が参加した。充足率は、平成27年度が83.8パーセント、平成28年度が88.1パーセント、平成29年度が96.5パーセントと右肩上がりである。

### 【改善を要する点】

現在、研究活動については本園の公開保育研究会や各種教育団体による研究会等で積極的に発表し、広く情報提供を行っている。公立幼稚園の全国的な縮小傾向や幼児教育の無償化に伴い、幼児教育の質の向上が今後さらに重要視されていく中で、本園の果たすべき役割は大きいと考える。研究成果をホームページ上にて公開して社会全体に情報を提供したり、教育委員会と連携した取組を推進して幼児教育センターとしての役割を果たしたり等、幼児教育の振興とともに地域の子育て支援をリードする取り組みが必要である。

## 3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I：管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること

観点1-1 管理運営のための組織及び事務組織が、適切な規模と機能を持っているか。また、危機管理等に係る体制が整備されているか。
---

(観点到る状況)

法令や教育学部規則に基づき、教育学部・附属学校連絡協議会の協議をとおして、適切に管理運営を行っている。運営に関する園務分掌等は年間に二度見直しを図り、修正をしながら機能強化を図っている。また、危機管理については教育学部やPTAと連携して未然防止や早期対応ができるよう、日頃から見回り、点検、研修、訓練を行っている。(資料 E-1-1-1) (資料 E-1-1-2)

(中期計画番号 53)

(水準)

・期待される水準にある。

(判断理由)

関係諸機関、並びに地域と連携した防災訓練を年に三回行い、PTA主催の防災研修やコミュニティ活動も行っている。近隣のビルとも連携し「災害避難時における緊急避難地」の提携を結んでいる。年長児は消防団員の指導の下、幼年消防団の活動も行われており、子どもたちの意識は高い。日常的な遊びの中で、子どもたちは保育者とともに遊具の点検や危険箇所がないか等、自発的なパトロールも行われている。また職員の意識も高まり、平成26年度より継続して、保護者・教職員向け「安全便り」も配付している。(資料 E-1-1-1) 幼稚園経営案

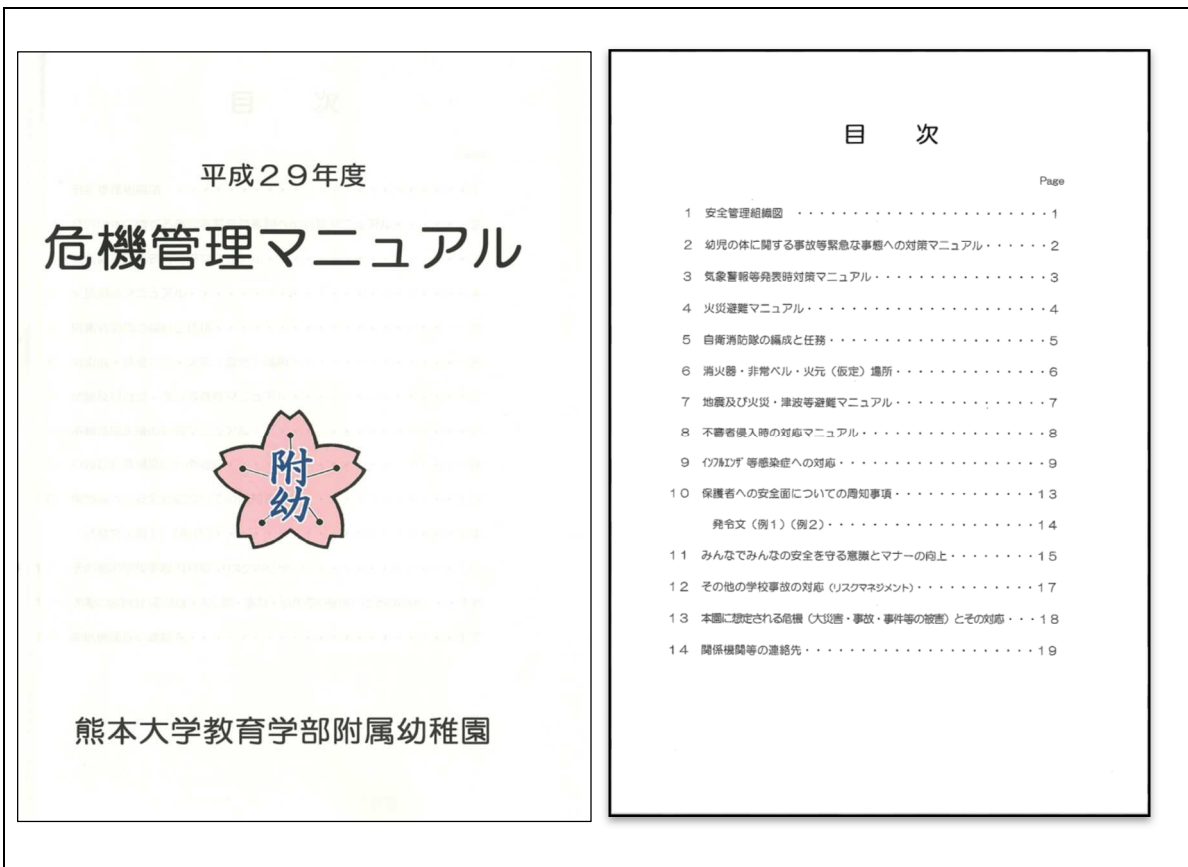
平成26年度から正式に一斉メールを導入し、自然災害による休園や緊急の降園連絡等の際に活用している。電話連絡も併用してより確実な情報伝達を行う等、子どもの安全確保に万全を期している。

危機管理マニュアルの項目は、1 安全管理組織 2 幼児の身体に関する事故等緊急事態 3 気象警報対策 4 火災避難 5 自衛消防隊 6 消火器・非常ベル設置場所 7 地震火災津波避難 8 不審者侵入対応 9 インフルエンザ 10 保護者への周知事項 11 その他のリスクマネジメント 12 想定される危機 13 関係機関連絡先 (資料 E-1-1-2) 危機管理マニュアル





(資料E-1-1-1)  
(出典：幼稚園経営案)



(資料E-1-1-2) (出典：危機管理マニュアル)



観点1-3 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質向上のための取組が組織的に行われている。

(観点に係る状況)

円滑な運営ができるよう計画的に園内研修が進められている。

(中期計画番号53)

(水準)

- ・期待される水準を上回る。

(判断理由)

園内計画に基づき、確実に研修を行っている。また、全国や九州等の附属校園の研修等の園外研修にも多くの機会に積極的に参加している。特に夏季休業中は、本市教育センター主催の研修や熊本県で行われる研修等に、ほとんどの職員が参加した。学内開催の電気安全講習会や事務関係、保健関係の専門研修等にも幅広く参加し、それぞれの立場で資質向上を図っていることで任務遂行が適切に行われている。

(資料E-1-3-1) 園内研修計画

研修及び研究の具体的な取組計画			
( 黒字…テーマ研究 赤字…職員研修 )			
★園内研究は、基本的に火曜日の15:00~16:30			
日	時	研究項目	参加者
4/		テーマ研	教官
研究及び研修内容			
4/		テーマ研	教官
・教育課程研究指定事業実施計画書作成			
4/21	金	テーマ研	教官
・教育課程研究指定事業実施計画書及び経費核算見込表作成			
4/26	水	テーマ研	教官
・本年度研究テーマの確認 ・本年度の研究計画の検討			
5/ 2	火	テーマ研	教官
・「幼児理解と評価」の指導書の読み合わせ ・研究会1次案内案提案、検討。その後発送			
5/10	水	職員研修① (特別対応教育)	全員 (規肥)
・個別指導計画を持ち寄り、全職員で共通理解を図る。 (13:30~14:30)			
5/15	月	職員研修② (救急法)	全員 (評納)
・心肺蘇生法の講習(15:00-15:40)			
5/16	火	テーマ研	教官
・28年度3学期のエピソードのカンファレンス ・研究紀要の構成、内容の提案。 ・研究紀要作成の役割分担の提案			
5/23	火	テーマ研 保育実践研究	全員 教官
・「砂場」での子どもたちの遊ぶ様子を記録する。 ・保育研の事後研(90分) 子どもの発達(幼児理解)と環境の構成や保育者の援助について研究をし、保育力の向上を図る。			
6/19	月	テーマ研 保育実践研究	全員
・「固定遊具」での子どもたちの遊ぶ様子を記録する。 ・保育研の事後研(90分) 子どもの発達(幼児理解)と環境の構成や保育者の援助について研究をし、保育力の向上を図る。			
6/26 (6/27)	月 火	テーマ研	教官
★第1回目 研究推進委員会(15:00~16:30) (顔合わせ、研究主題と研究計画の共通理解)			
7/10	月	テーマ研 保育実践研究	教官
・「表庭」での子どもたちの遊ぶ様子を記録する。 ・保育研の事後研(90分) 子どもの発達(幼児理解)と環境の構成や保育者の援助について研究をし、保育力の向上を図る。			
7/25 26	火 木	職員研修③ (幼児教育)	教官
・全附属上題研究会に参加、自己研鑽を積む。			
7/28	金	職員研修④ (幼児教育)	全員
・熊本県国公立幼稚園会研究集會に参加			
7/31	月	テーマ研	教官
・研究紀要の原稿 1次提出 (研究概要、教育課程、各年齢の月案・エピソードなど) ・研究会案内状の検討 (※8月10日までに発送)			

(出典：園内研修計画)

分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに、継続的に改善するための体制が整備され、機能していること

観点2-1 活動の総合的な状況について、根拠となる資料やデータ等に基づいて、自己点検・評価が行われているか。

(観点到に係る状況)

行事ごとの反省や学期末の職員アンケート、学級担任による学級経営案の学期ごとの評価を実施している。

(資料 E-2-1-1)

(中期計画番号 52)

(水準)

・期待される水準にある。

(判断理由)

学期毎に行う反省と志向については、学期末に行う職員アンケートによる反省や学級経営案で、年度末には自己評価で、活動の総合的な状況について根拠となる具体的な事実や資料、データに基づき点検・評価を実施し、それを反映させて次期の計画を策定している。

(資料 E-2-1-1) 人事評価記録書

平成30年度 人事評価記録書					教諭(附属幼稚園)用			
<b>【業績評価】</b>								
所属	熊本大学附属幼稚園			氏名				
職員番号	年齢	教職勤務年数	年月	現職勤務年数	年月			
<b>【1 目標】</b>				<b>期間、実施日等</b>				
所属の目標				評価期間				
1 子どもの保育の充実…子ども一人一人の理解に努め、発達と特性に応じた保育に努めるとともに、幼稚園教育要領に基づいた教育課程について研究を深める。 2 資質の向上…諸研修会への参加や研修会の企画等を通して、教職員としての基本的資質や実践的指導力の向上を目指す。 3 保護者への支援と啓発…今日的な課題と保護者の思いを把握し、子育て支援を充実させる。				平成30年 4月 1日 ~ 平成30年 3月 31日				
				評価者 平成 30年 月 日 面談者: 松岡美幸 育成面談 平成 31年 月 日 面談者:				
具体的目標 (どのような現状について、何を、どのように)				目標の達成状況等 (達成状況、状況変化その他の特筆すべき事情)				
番号	取組テーマ					自己評価 (個別評語)	1次評価者 (個別評語)	2次評価者 (個別評語)
1	保育研究							
2	生活指導							
3	園務分享							
<b>【2 設定目標以外の業務への取組状況等】</b>								
番号	業務内容	目標以外の取組事項、突発事態への対応等				1次評価者		
4	教育実習					(所見)		
<b>【3 全体評語等】</b>								
全体評語等	1次評価者				2次評価者			
	(所見)				(所見)			
平成 年 月 日 職名 氏名				平成 年 月 日 職名 氏名				

(出典：人事評価記録書)

観点2-2 活動の状況について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による評価が行われているか。

(観点に係る状況)

学校評価を行い、学校評議員会を年2回開催し、指導助言を受けて教育活動の充実を図っている。

(中期計画番号 53)

(水準)

・期待される水準にある。

(判断理由)

学校評議員会において活動状況等の状況報告等を行い、適切な指導・助言を受け、教育活動の改善に活かしている。

観点2-3 評価結果がフィードバックされ、改善のための取組が行われているか。

(観点に係る状況)

学校評議員会での評価を受け、評価結果をいち早く反映させ改善を行っている。

(中期計画番号 53)

(水準)

・期待される水準にある

(判断理由)

評価後、早い時期に改善が図られている。

分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果されていること。＜教育情報の公表＞

観点3-1 目的が適切に公表されるとともに、構成員に周知されているか。

(観点到に係る状況)

保護者向けに毎月園便りを発行して、年齢毎の教育内容について知らせている。研究活動については、毎年公開保育及び幼児教育研究会を開催し、その際に研究紀要を配付している。また、保護者会や学校評議員会の際に、子どもたちの具体的な姿を示しながら研究についての説明を行っている。

(中期計画番号 51)

(水準)

・期待される水準にある。

(判断理由)

保護者及び外部関係者のニーズに応え、園の情報を適切に提供している。

観点3-2 入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針が適切に公表・周知されているか。

(観点到に係る状況)

入学者受入方針は、説明会を開いて入園を希望者対象に説明を行っている。

教育課程の編成・実施方針は、園内行事や教育課程について分かりやすく概要にまとめ配付している。

(資料 E-3-2-1)

(中期計画番号 53)

(水準)

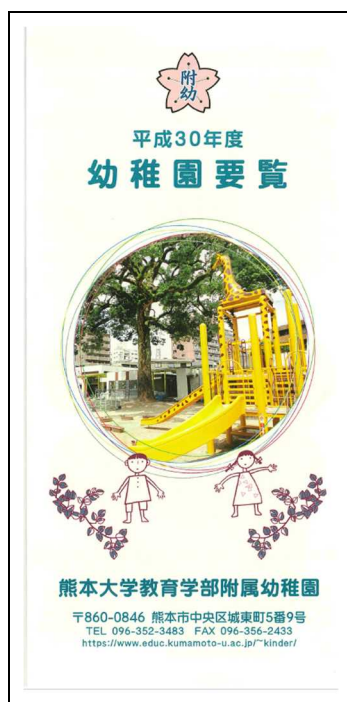
・期待される水準にある。

(判断理由)

以前は1回の開催だった入園保護者説明会を2回に増やし、より丁寧に入学者受入方針の説明を行っている。

教育課程の編成・実施方針は、幼稚園要覧にや概要を分かりやすく記述するとともに新入園保護者会で「附属幼稚園へのいざない」を配付して詳しく説明を行っている。また、ホームページでも公開し、広く情報の提供を行っている。

(E-3-2-2) 幼稚園要覧



(資料 E-3-2-2)

(出典：幼稚園要覧)



(資料E-3-2-1) (出典：入園のいざない)

観点3-3 教育研究活動等についての情報（学校教育法施行規則第172条に規定される事項を含む。）が公表されているか。

(観点到る状況)

保護者に対して、研究活動報告を兼ねて研修会を開催するが、適切な情報公開は実施している。

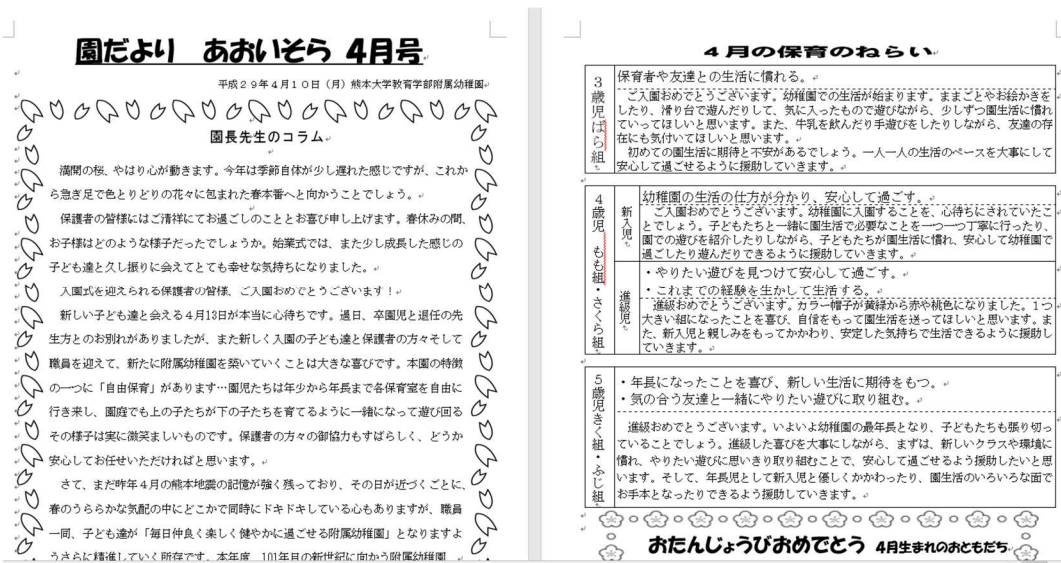
(中期計画番号 53)

(水準)

- ・期待される水準にある。

(判断理由)

保護者向けの園便り「あおいそら」を毎月配付し、園長、副園長からのメッセージを掲載して本園の教育活動の周知を図るとともに、毎月の学年ごとのねらいや園児の遊びの様子について各家庭に知らせている。さらに、ホームページ等の内容を充実させ、幼稚園の教育全般や教育方針、季節毎の行事、園児の活動の様子について広く公表している。(資料E-3-3-1)



(資料E-3-3-1) (出典：あおいそら)

分析項目IV 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。〈施設・設備〉

観点4-1 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備における耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面について、それぞれ配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

平成25年度の園舎改修に伴い、大幅な施設設備の改善、園舎内のバリアフリー化が図られた。それに伴い、質の高い保育のための環境面で整備もなされた。

(中期計画番号51)

(水準)

・期待される水準にある。

(判断理由)

平成25年度に改修されなかったプールや、日々の教育活動で使用する印刷機等の買い換えや修理等は経費の不足により、十分な整備がなされていない。また、耐震化、バリアフリー化への対応は水準を満たしているものの、毎月の安全点検で指摘される破損箇所の補修や補強についても、予算の都合上対応不可であったり遅延が散見されたりしている。

観点4-2 教育研究活動を展開する上で必要なICT環境が整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

平成25年度の園舎改修に伴いICT環境が整備されたが、新機種の交換や補充が必要である。

(中期計画番号53)

(水準)

・期待される水準にある。

(判断理由)

ICT機器の計画的な入れ替えを行っているが、職員の絶対数に対してパソコンやデジタルカメラ等の機器が不足している。予算の削減によりニーズに対して十分な対応とは言えない。さらに、時代の急速な変化に伴い、タブレットやソフトウェア等の導入も必要だが年々予算が削減される中での実現は難しい状況にある。

観点4-3 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

平成25年度の園舎改修に伴い、幼児の絵本部屋を新たに設置し充実している。計画的な購入も行っている。

(中期計画番号53)

(水準)

・期待される水準にある。

(判断理由)

園児の絵本の部屋と図書保管庫が新設され機能している。

担任や補助職員等の保育者による読み聞かせだけでなく、幼児自らが手に取って本に親しむ姿がよく見られている。また、保護者による読み聞かせの際も活用されている。



#### 4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目Ⅰ 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され、機能していること  
質を維持している

(記述及び理由)

○毎月開催される教育学部と附属学校園の運営委員会ならびに運営協議会において、問題点を把握し、連携・協力しながら適切な運営体制が整備されている。

(2) 分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに、継続的に改善するための体制が整備され、機能していること  
質を維持している

(記述及び理由)

○自己評価、学校評価をもとに、年度末の学校評議員会において次年度の改善について協議している。学期毎の評価検証活動を取り入れ、マネジメントサイクルを強化して年度内に改善が図られるように工夫している。

(3) 分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。＜教育情報の公表＞  
質を維持している

(記述及び理由)

○研究発表会等での教育活動の報告や研究の成果物等の配付を毎年確実にやっている。また、社会全体に対して早く的確に情報提供ができるよう、ホームページを利用した情報発信もやっている。

(4) 分析項目Ⅳ 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。＜施設・設備＞  
質を維持している

(記述及び理由)

○平成 26 年度の園舎改修に伴い、施設・設備の整備や充実が図られたが、時間の経過に伴い補修や整備の必要箇所も散見される。園児の安全確保と更なる教育の質の向上のためには、対応が必要である。

### Ⅲ 教育研究支援の領域に関する自己評価

## 1. 目的と特徴

大学教育学部、四附属学校園と連携して先導的な教育研究を行い、充実した教育実習を推進するために、次のように取り組んでいる。

- ①全国附属幼稚園会、九州附属幼稚園会において、今日的な課題について協議したり共同研究を深めたりしている。
- ②熊本大学教育学部との連携において、共通のテーマで継続的・発展的に研究を行っている。
- ③附属小中特別支援学校との連携・協力・交流会を実施している。

### [想定する関係者とその期待]

- 全附連：全国の附属幼稚園が合同研究をすることで今日的な研究課題に取り組み、それぞれの研究結果を持ち寄ることで先進的な研究成果を共有する事ができる。各都道府県の公立幼稚園を始めとして幼保連携型認定こども園や保育所等のモデルとなりリードする。
- 大 学：大学職員が専門的な立場から教材の提供を行ったり職員に直接指導をしたりする事で、研究成果の検証となったり、より質の高い幼児教育を行うことができる。学生や院生が幼児の観察や幼児との関わりをもつ事で、理論の検証や実践的な指導を学ぶ機会となったりする。
- 保護者：子どもや保護者が大学職員から直接指導を受ける事ができ、学ぶ楽しさを知り見識を深めることができる。

## 2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

### 【優れた点】

- 研究を推進し、毎年公開保育研究会を開催している。幼児教育としては全国的に先駆けた評価についての研究に取り組み、その成果を全国的に発信する他、熊本県研究協議会、大学関係のシンポジウムで発表する等多方面で普及活動を行っている。
- 幼小の先導的連携カリキュラム（アプローチカリキュラム）を作成するとともに、指導要録抄本の形式と記入内容を工夫し、幼稚園教育と小学校教育の接続が滑らかに行われるよう工夫している。
- 研究推進委員である大学の教授の指導助言により、エビデンスに基づく研究成果の検証や更なる保育の充実を図ることができている。学生による保育支援により、表現活動の安全面及び技術面において保育の質の向上や維持が保たれている。
- 教育実習の充実として、事前に本園職員が大学での幼児教育指導法について4コマの講義を行っている。実習は学年に応じて、目的意識を持って学びを実感しより深められるよう充実したプログラムを行っている。
- 副園長が熊本県の国公立幼稚園会の研究部長を歴代務め、県全体をリードしている。

### 【改善を要する点】

- 幼小の先導的連携カリキュラム（スタートカリキュラム）の作成を促すこと、また幼小それぞれでの実践と検証が課題である。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 教育研究支援

観点 1-1 教育課題

(観点に係る状況)

園内の研究を推進し、県下の幼児教育をリードしている。

幼小の先導的連携カリキュラム（アプローチカリキュラム）を作成し本園の研究紀要に掲載するとともに、指導要録抄本の形式と記入内容を工夫し、幼稚園教育と小学校教育の接続が滑らかに行われるよう工夫している。(資料 G-1-1-1)

(中期計画番号 51, 53)

(水準)

- ・期待される水準にある

(判断理由)

毎年、公開保育研究会を開催し研究紀要にまとめている。特に平成 29 年度に国立教育政策研究所の研究指定を受け、幼児教育としては全国的に先駆けた評価についての研究を 2 カ年にわたり取り組んでいる。研究成果は、国立教育政策研究所主催の発表会で報告するほか、全附属や九附属の幼稚園部会、熊本県教示教育理解推進事業として行われた熊本県研究協議会、九州地区の保育士・幼稚園教諭養成大学のシンポジウムで発表する等多方面で普及活動を行っている。

(資料 G-1-1-1) アプローチカリキュラム

育ちを促せる視点		熊本大学教育学部附属幼稚園版アプローチカリキュラム (5歳児9月~3月) <span style="float:right">平成29年9月</span>							
		ねらい 及び 経験して欲しい内容							
		9	10	11	12	1	2	3	4
- 32 -	<b>人とかかわる力</b>	<b>互いの思いや考えを受け入れ合いながら協力して遊びを進める</b> ・相手の話に気持ちを向けて聞き、その思いや考えに気付く。 ・思いや考えを出し合う中で折り合いをつけようとする。 ・共通の目的に向かって力を出し合いながら遊ぶことを楽しみ、友達とのつながりを感じる。				<b>互いのよさを生かしながら協力して遊びを進める</b> ・友達と共通の目的をもち、思いを実現するために考えを出し合う。 ・互いのよさを認め合い友達と心を通わせ合う。 ・自分達で決めたことを協力しながら遊びを進め、達成感を味わう。			
	<b>学ぶ力</b>	<b>目的や課題をもって探求し、やり遂げた充実感や達成感を味わう</b> ・自分なりの目的や課題をもち、工夫したり根気強く取り組んだりする。 ・様々な人とかわりながら、自分の見方や考え方を広げる。 ・物の性質や仕組みに関心をもち、遊びに生かす。 ・自分の経験やイメージを意欲的に表現する。 ・数量や図形、標識や文字などを遊びや生活の中に用いる。 ・必要に応じてルールをつくったり守ったりする。 ・相手にわかるように言葉などで伝えようとする。							
	<b>生活する力</b>	<b>気持ちよく過ごすために、生活を工夫する</b> ・気持ちよく生活するために、主体的に行動しようとする。 ・相手のことを考えて生活する。 ・自分や友達を大切にする。 ・時間を意識して生活する。				<b>生活の流れを見通してより楽しい園生活を営む</b> ・気持ちよく生活するために、見通しをもって行動しようとする。 ・してよいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。 ・これまでに経験したことを生活に生かす。 ・成長した自分に気付き、自信をもって生活する。 ・これまでの園生活でお世話になった人に感謝の気持ちを表す。			

(出典：研究紀要)

観点1-2 大学・学部との連携

(観点到に係る状況)

研究推進委員を熊大の教授3人に依頼し、年間4回開催する推進委員会で専門的な見地から指導助言頂いている。(資料 G-1-2-1) また、保護者の家庭教育力を高めるため「父母の会」(保護者向け研修会)における講話や実践演習等を行っている。(資料 G-1-2-2) さらに教育実習だけではなく、学生が保育を行う機会も設けている。(中期計画番号 51)

また、本園が毎年開催する公開保育研究会においては、大学教授による指導助言を仰いでいる。子どもの教育相談や、保護者の家庭支援については、特別支援学校や実践センターと連携をし、個別の対応を図っている。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

研究推進委員である大学の教授の指導助言により、エビデンスに基づく研究成果の検証や更なる保育の充実を図ることができている。

また、本園での実習経験がある学生が保育支援を継続的に行っており、木工、粘度遊び、紙工作等の表現活動については、安全面が確保され技術指導が高まり保育の質の向上や維持が保たれている。

(資料 G-1-2-1) 研究推進委員会の構成員、実施予定等

熊本大学教育学部附属幼稚園  
教育課程研究指定校事業にかかる研究推進委員会要項

1 趣旨  
本園は、平成29年度から2年間、国立教育政策研究所教育課程研究センターの教育課程指定校事業の委嘱を受け、「幼稚園教育要領の趣旨等の実現に向けた評価方法の工夫、及び評価に基づいた指導内容や指導方法の工夫改善に関する実践研究」を行う。研究推進委員会は、本園における研究推進体制の充実を図り、研究の方向性を協議する。

2 研究主題  
「『学びをつなぐ教育課程』～幼児期にふさわしい評価の在り方を探る～」

3 研究体制

```

graph TD
    DG[園長] --- DP[副園長]
    DP --- RPK[研究推進委員会]
    RPK --- RY[研究部]
    RY --- NS[年少部]
    RY --- NN[年中部]
    RY --- NSL[年長部]
    
    RPK --- RCP1[熊本県教育委員会<br/>指導主事、<br/>幼児教育アドバイザー]
    RPK --- RCP2[熊本市教育委員会<br/>指導主事]
    RPK --- RCP3[熊本県園公立幼稚園会]
    
    RPK --- RUP1[熊本大学教育学部]
    RPK --- RUP2[熊本大学教育学部附属小学校<br/>附属中学校<br/>附属特別支援学校]
    
```

4 推進委員の構成メンバー  
(1) 本園園長、副園長、教諭  
(2) 熊本大学教育学部教授および准教授  
(3) 熊本県教育委員会および熊本市教育委員会指導主事  
(4) 熊本大学教育学部附属小学校教諭  
(5) 熊本市立幼稚園園長および主任教諭

5 期間および回数  
(1) 期間：平成29年5月9日～平成31年3月31日  
(2) 回数：8回程度

(3) 実施予定日

	期 日	内 容
第1回	平成29年 8月28日	メンバー紹介 会の趣旨および園の研究概要説明
第2回	平成29年10月24日	幼児教育の評価のあり方
第3回	平成30年 1月16日	中間発表検討
第4回	平成30年 3月23日	2年目への研究の方向性
第5回	平成30年 6月下旬	評価指標の検討
第6回	平成30年 8月下旬	評価方法の検討
第7回	平成30年10月中旬	幼児教育の評価の方向性
第8回	平成31年 1月上旬	成果発表のまとめ

※ 時間 15:00～16:30  
※ 回数、日時、内容については予定

6 期待される成果

- ・ 指導内容や指導方法を評価、改善する際、子供の発達を評価(C)し、指導内容や指導方法を改善(A)した上で、指導計画を立案(P)し、実際に保育を行う(D)サイクルを活用することが重要である。幼児教育は、計画(P)から保育を始めるのではなく、子供の遊ぶ姿から育ちを評価(C)し、その評価にもとづいて指導内容や指導方法を改善する(A)ことの重要さを明らかにする。  
【CAPDサイクルの活用】
- ・ 幼稚園教育において育みたい資質・能力の「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性など」の3つの柱と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点は、総合的に子供の育ちを捉えることにつながる。この3つの視点と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿から、子供の育ちと指導内容、指導方法の評価の指標を明らかにする。  
【資質・能力の3つの柱と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿で評価指標を作成】
- ・ 個々の育ちを捉える様々な方法を試し、よりよい評価方法を見出す。  
【個の評価方法の工夫改善】

(出展：教育課程研究指定校事業にかかる研究推進委員会要項)

**親の学び**

**父母の会** 幼稚園主催の保護者勉強会

<p>5月</p> <p><b>「幼児教育と本園の教育」</b></p>  <p>熊本大学教育学部附属幼稚園 園長 緒方 信行 先生</p>	<p>6月</p> <p><b>「楽しい食育・共食のすすめ」</b></p>  <p>熊本市中央区役所 保健子ども課 技師 西坂 咲 先生</p>	
<p>9月</p> <p><b>「親子ダンス トロの森に出かけよう」</b></p>  <p>熊本大学教育学部附属特別支援学校 校長 坂下 玲子 先生</p>	<p>12月</p> <p><b>「子供と大人の関わり創り」</b></p>  <p>熊本大学名誉教授 教職大学院シニア教授 吉田 道雄 先生</p>	<p>1月</p> <p><b>「いま伸ばしたい子どもの能力」</b></p>  <p>熊本大学教育学部 心理学科 准教授 高崎 文子 先生</p>

(出典：PTA研修誌「くすわかば」)

観点1-3 附属学校園の役割・機能の見直しの観点から、附属学校園の目的を十分に果たしているか

(観点に係る状況)

本園の使命として、教員養成のための教育実習の充実を図ること(資料 G-1-3-1)質の高い保育の維持、向上を図ること(資料 G-1-3-2)全国附属幼稚園会の研修会等で最新の情報を得て、熊本県国公立幼稚園の研究をリードし幼児教育のモデルとなること大学との連携による共同研究を進めること(中期計画番号 51, 52)等が求められており、日々の実践から研修を深めたり研究会で報告をしたりしている。

(水準)

- ・期待される水準にある。

(判断理由)

教育実習の充実については、本園職員が2年次学生に対して大学での幼児教育指導法について4コマの講義を行っている。2年次の実習は、教育学部生約250人程度が目的意識を持って参加し学びをその後に生かすような働きかけを行い、4年次実習は、約10名程度の実習生が個に応じた丁寧な指導と、反省と実践を往還するような働きかけを行い、充実した実習を行っている。幼稚園での実習をきっかけに教育観の転換があったとの声も多く、幼稚園教諭志望者だけでなく、小中学校教諭を志望する学生にとって教育のあるべき姿を見つめ直す貴重な場となっている。

また、毎年公開保育研究会を開催し、保育研究の成果を発表に合わせて先導的な講演会を開催したり、幼児教育セミナーを開催したりして、公立幼稚園をリードする役割を果たしている。大学との連携による共同研究は、大学教授が主宰する総合学習学会の会員として本園職員が所属し、学会での発表を行っている。

(資料G-1-3-1) 教育実習記録

**平成26年度 2年次実習(II) 実習計画**

平成26年7月16日(水)  
熊本大学教育学部附属幼稚園

1 期日 平成26年9月8日(月) 9日(火) 10日(水)  
事前オリエンテーション 9月2日(火)

2 実習生数(計293名)

1班 8日(月)	2班 9日(火)	3班 10日(水)
国際 2.2	社会 2.5	数学 2.8
技術 1.1	美術 7	理科 1.8
教育 1.9	家庭 8	音楽 8
心理 1.4	特支 2.6	保健 1.3
スポ協 2.8	養教 3.3	英語 2.0
計 9.4名	計 9.9名	計 9.8名

3 引率の先生  
8日(月) (午前) [ ]  
9日(火) (午前) [ ]  
10日(水) (午前) [ ]

4 実習生代表挨拶 就任式挨拶◎ 退任式挨拶○  
8日(月) ◎ [ ]  
9日(火) ◎ [ ]  
10日(水) ◎ [ ]

5 日程

時間	実習内容	幼児の活動
8:10	・出勤簿捺印、着替え	
8:25	・リズム室に集合、整列	
8:30	・就任式、オリエンテーション	
8:50~	・幼児の活動を参観する。 (登園、所持品の始末を参観) (担当幼児を10分間観察し記録をとる) (自分なりの目的をもって幼児を観察する) ・牛乳給食の様子を観察する。 ・幼児とかわわり一緒に遊ぶ。 ・使ったものを片付ける。 ・帰りの会の様子を見たり、参加したりする。 ・降園する様子を観察する。	・登園、所持品の始末をする。 ・自己紹介をする。 ・自ら選んだ遊びをしたり、クラス活動をしたりする。 ・牛乳給食をとる。 ・実習生とかわわり遊ぶ。 ・片付けをする。 ・帰りの会に参加する。 ・降園する。(3歳児 11:30、4歳児 11:40、5歳児 11:45)
11:45~	・各年齢別の協議会に参加する。(45分) (年少 11:45~12:30、年中 11:55~12:40、年長 12:00~12:45)	
12:30~	・着替をとって昼食。(各年齢で45分)	
13:15~	・全体会場をつくる。(3、4歳児担当中心)	
13:30~	・環境整備をする。(担当場所を25分間) ・着替えをする。	
14:10	・副園長講話(30分)	
14:40	・退任式	
~15:40	・レポート作成、退園( ~15:40)	

6 係分担について

全体指導 オリエンテーション 年齢別分科会	統籌き場 雨天の際の傘立て 朝の動きの表示 譜表示 放送機器 レポートの整理 縦断クラスの配当 環境整備の割り振り
-----------------------------	--

資料印刷・綴じ  
出勤簿確認

7 内容

ア 就任式(8:30~8:40) 司会:吉永

①初めの言葉  
②園長挨拶  
③引率の先生の挨拶  
④実習生代表の挨拶  
⑤職員紹介  
⑥おわりの言葉

※準備物 マイク(2)マイクスタンド(2)パイプ椅子(3)長机(2)ボード

イ オリエンテーション(8:40~9:10) 大塚

・実習の流れ  
・幼児観察の視点  
・幼児にかかわる際につけること  
・諸注意

ウ 年齢別協議会の準備(担任を中心に実習生が行う)  
・幼児用の椅子、幼児用机、保育者用椅子

エ 年齢別協議会(年少 11:45~12:30、年中 11:55~12:40 年長 12:00~12:45)  
・場所...各保育室

オ 副園長講話(14:10~14:40)  
・場所...リズム室

カ 退任式(14:40~15:00)

①初めの言葉  
②(副)園長あいさつ  
③実習生代表の挨拶  
④引率の先生の挨拶  
⑤おわりの言葉  
⑥結幕辞

8 その他

・当日資料について 9月3日に提出、9月5日に綴じ。  
・実習生の荷物置き リズム室内の壁際周辺(平均台などを置いて)  
・実習生の着替え場所 年中保育室(男性) 年長保育室(女性)  
・出勤簿は、リズム室入口の長机に置く。朱肉の準備  
・担当幼児の表示と環境整備の割り振りはリズム室に掲示する。  
・名札は学部で準備していただく。

**平成26年度 4年次実習(III) 実施計画**

熊本大学教育学部附属幼稚園

1 目的  
○教育の原点である幼児教育における保育者の役割、幼児へのかわり方などについて実習し、実践的指導力を高める。  
○観察、実習、講話などにより、3・4・5歳児の発達段階や遊びの様子などを把握し、保育のあり方を学ぶ。  
○教育者を目指す者としての服務規律を学ぶとともに、使命感や教育的愛情を培う。

2 期間 平成26年5月29日(木)~6月11日(水)

3 クラス配当

きく組	[ ]
さくら組	[ ]
ばら組	[ ]

4 園児数及びクラス状況

年齢	組名	人数	担任
5歳児	きく組	男児14名 女児10名 計24名	[ ]
	ふじ組	男児13名 女児11名 計24名	
4歳児	さくら組	男児13名 女児13名 計26名	[ ]
	もも組	男児12名 女児14名 計26名	
3歳児	ばら組	男児16名 女児8名 計24名	[ ]

5 実習内容

①講話を聞いて、幼児教育の理解を深める。  
②観察実習を通して、幼児の活動の意味や保育者の援助のあり方を学ぶ。  
③幼児とのかかわりを通して、各年齢の幼児の心身の発達を知る。  
④牛乳給食・弁当・帰りの会などの部分保育を行い、保育の援助のあり方を学ぶ。  
⑤指導計画の作成のしかたを学び、保育指導案を作成する。  
⑥教材研究及び教材作成をする。  
⑦研究保育(大研・小研)を行う。  
⑧研究保育の協議会を運営する。  
⑨実習の反省及び今後の課題についてまとめる。  
⑩教職公務員としての規律や組織の一員としての勤務について学ぶ。

6 実習計画

日	時	実習内容	実習内容	日
29	9:00~13:10	観察 園生活の流れや幼児の生活の様子を観察する。	講話「幼児教育の基本」 (1) 幼稚園教育の基本 (2) 本園の保育のあり方(副園長)	教材研究・指導計画作成・保育の準備
30	9:00~11:45	観察 遊びの観察を通して幼児の心情や発達、行動の意味について考察する。 実習 部分保育(絵本の読み聞かせなど)	講話「幼稚園教育要領」 (1) おいびり内容(浅尾) (2) 環境の構成(吉永)	
1	9:00~11:45	実習 保育実習を通して、朝の受け入れや所持品の始末の援助のあり方を学ぶ 部分保育(歌の指導)	講話「幼稚園教育要領」 (3) 指導計画(大塚) (4) 保育者の援助(大塚)	
2	9:00~11:45	実習 保育実習を通して、朝の受け入れや所持品の始末の援助のあり方を学ぶ 部分保育(歌の指導)	講話「各年齢の発達の特徴」 5歳児(大塚) 4歳児(神保) 6歳児(浅尾)	
3	9:00~11:45	実習 担当クラスの保育補助をしながら、幼児の心情を理解したり保育活動の意味について考察する。 部分保育(弁当の指導)	講話「健康教育」(藤井)	
4	9:00~11:45	実習 担当クラスの保育補助をしながら、幼児の心情を理解したり環境の構成の意味を考察したりする。 部分保育(帰りの会)	環境整備(プールや砂場など) 保育指導案作成 お楽しみ会の計画	
5	9:00~11:45	実習 担当クラスの保育補助をしながら、幼児の心情を理解したり環境の構成の意味を考察したりする。 部分保育(帰りの会)	保育指導案作成 研究保育(小研・大研)の準備	
6	9:00~11:45	実習 担当クラスの保育補助をしながら、幼児の心情を理解したり環境の構成の意味を考察したりする。 部分保育(帰りの会)	保育資料作成 研究保育の準備	
9	9:00~11:45	研究 研究保育を行う。(大研) 実習 研究保育を観察し、環境の構成や援助の在り方を考える。 部分保育(弁当の指導)	研究保育討議会へ参加及び運営 (園長・副園長・全担任・養護教諭・全実習生)	
10	9:00~11:45	実習 担当クラスの遊びの援助や環境の構成を実習する。 部分保育(帰りの会)	お楽しみ会の準備	
11	9:00~11:45	実習 「お楽しみ会」の運営をする。 部分保育(帰りの会)	実習全般に関する反省会 (園長・副園長・全担任・養護教諭、全実習生)	

\*5月22日(木)午後4時00分より本園にてオリエンテーションを行う。

(出典：教育実習記録)

(資料G-1-3-2) 月の指導計画

平成29年度 4歳児 4月月案 2・3年保育混合4歳児 もも組さくら組	
進級入園当初の様子	<p>○新入児</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験室は、雨の高室内の遊びになったが、ブロックやままごとに興味をもってかかっていた。ブロックが得意な子どもは、汽車やロケットなど工夫してつくっていた。</li> <li>入園時は、母親と離れるのが不安な子どもが3人いたが、式の形勢は笑顔で見ていた。</li> <li>初めの子どものだけの室内戸を覗き、靴を覗くと、「どこに行くの？」と聞く子どももいた。晴天に恵まれ、ブランコやスライダーで遊ぶ子どもが多かった。</li> </ul> <p>○進級児</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>始業式で、クラス発表を聞いて新しい担任が名札をつけてもらった。「もも組さん」「さくら組さん」と言われてもどちらのクラスが戸惑い「赤チーム？」と聞く子どももいた。</li> <li>進級した喜びで活動的に行動し、戸外の固定遊具や虫や土、砂、水などにかかわり、やりたい遊びを見つけて、思い切り遊ぶ子どもが多かった。</li> <li>担任が変わったり、新入児が入ってきたり環境が変化したことで、戸惑いを感じている子どもも見られた。</li> </ul>
	<p>期のねらい (2年保育)</p> <p>I 安定感をもって園生活を送る。 1 幼稚園の生活に慣れる。</p> <p>(3年保育)</p> <p>II 園生活を楽しむ。 1 友達と遊ぶ。</p> <p>4月のねらい (共 通) ・友達や保育者に親しみをもち、新しい集団生活に慣れる。</p> <p>(2年保育) ・幼稚園の生活の仕方が分かり、安心して過ごす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な自然や素材に出会い、興味をもってかかわる。</li> <li>やりたい遊びを見つけて遊ぶ中で安心して過ごす。</li> <li>これまでの経験を生かして生活する。</li> <li>身近な自然や素材に出会い、自らかかわって遊ぶ。</li> </ul> <p>(3年保育) ・友達や保育者に親しみをもって、喜んで園生活を送る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの経験を生かし園内のいろいろな遊具や場で遊ぶ。</li> <li>生活に必要なことを保育者や友達と一緒にする。</li> <li>いろいろな素材に興味をもって、身近な道具の使い方に気付いたりする。</li> </ul>
内 容	<p>(共 通) ・保育者や周りの人達にあたたかく見守られたり、支えられたりして安定した気持ちで園生活を過ごす。</p> <p>(2年保育) ・保育者や友達と過ごすことを喜ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達がいる様子を見ながら園生活の流れがわかり、生活に必要なことに取り組む。</li> <li>自分のしたいことや興味ある場を見つけて遊ぶ。</li> <li>砂や水、新聞紙などの素材にかかわって遊ぶ。</li> </ul> <p>(3年保育) ・友達や保育者に親しみをもって、喜んで園生活を送る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの経験を生かし園内のいろいろな遊具や場で遊ぶ。</li> <li>生活に必要なことを保育者や友達と一緒にする。</li> <li>いろいろな素材に興味をもって、身近な道具の使い方に気付いたりする。</li> </ul>
	<p>◎園生活の仕方がわかるように</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人が自分の場所 (籠、椅子かけ、道具棚、靴箱など) を覚えられるように、各自オリジナルのマークをつける。</li> <li>○身の回りの結束を自分でしやすいように、友達を取り組んでいる様子が互いに見えるように、籠や椅子かけの近くにテーブルを置く。</li> <li>○牛乳の準備や給食の仕方が分かり安心して過ごせるように、机や椅子を準備して牛乳を飲む。</li> </ul> <p>◎一人一人がしたい遊びに十分にに取り組めるように</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○遊びの場や遊具、遊んでいる友達や保育者の姿がよく見えるように、保育室の環境を構成する。</li> <li>○これまでの遊びや体験室の様子から予想して、遊びたいと思ったものを見つけたら片付けたりしやすいように、用具や遊具の置き方や収納場所を子どもの目線に立って配慮していき。(移動遊具、砂場遊具、浴水の桶、網罟ケース、画用紙やサインペン、ブロックなど)</li> <li>○家庭と同じような雰囲気になるようにする。</li> <li>○ままごとコーナーを畳や座卓などを利用してつくる。抱き人形やぬいぐるみなど、手触りの良い物を用意し、安心感をもてるようにする。</li> <li>○進級児がこれまでの経験を生かして遊ぶことができるような環境を整える。</li> <li>○友達と集って遊ぶ場と個々が落ち着いて過ごせる場をつくる工夫をする。</li> </ul>
環境の構成	<p>◎保育者や友達に親しみをもてるように</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○遊びの際は、年少組からの友達とクラスが分かれた不安感を小さくできるように戸外で遊ぶように誘い、誰とでも気軽に遊ぶことができる状況をつくる。</li> <li>○牛乳後は、年中組全員で集う機会を設け、保育者や友達と一緒に歌ったり踊ったりする。</li> <li>・歌「お花がわらった」「園歌」「先生とお友達」「このぼり」「小鳥の歌」</li> <li>・フォークダンス「あくしゅでこんにはち」</li> <li>○給食前は、クラス毎に集い、一緒に絵本をみたり、手遊びをしたりすることで、クラス意識をもったり友達の名前を知ったりできるようにする。</li> <li>・手遊び「くいしんぼうのゴリラ」「ひげいさん」「むすんでひらいて」など</li> <li>・集まった時に、互いの顔が見られるように円形に椅子を並べる。</li> </ul> <p>◎身近な素材にかかわって遊ぶように</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○これまで遊んだ経験があると思われる素材を手取りやすい場所に置く。(新聞紙、広巻紙、色紙など)</li> <li>○線のぼりつくりができる環境を用意する。</li> <li>・室内に本物の線のぼりをする。</li> <li>・コピー用紙A3、B4の大きさが違う用紙を準備する。三角や円、四角に切った色紙、線、手ふき、座卓、リボンを付けた割り箸(できたこのぼりを手に持てるように)</li> <li>○砂場や親子山で保育者が一緒に遊ぶことで、子どもたちも安心して遊んだり友達とかがわたりできるようにする。砂場をよわがく広くしておく。</li> </ul>
子ども一人一人の姿	<p>・新入児は、園生活に期待や不安など、様々な思いをもって園生活を過ごすだろう。目につく遊具に次々とかわり、集団の友達に自分からかかわって遊ぼうとしたり、保育者の側で過ごすことで徐々に安定していく子どももいる。</p> <p>・所給品の給食や給園準備など、これまでの生活との変化に戸惑う子どももいる。</p> <p>・進級児は、春休み明けで久しぶりに会う友達と、うち解り合って遊ぶだろう。</p> <p>・進級児の中には、保育室が変わったことに戸惑ったり、仲の良い友達とクラスが離れたことで不安を感じたりする子どももいる。</p> <p>・進級児の中に新入児に対して関心をもつ子どもがいる一方で、あまり関心をもたない子どももいる。</p>
援助のポイント	<p>◎保育者や友達と共に過ごしながら安定した気持ちで過ごせるように。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○保育者が笑顔で一人一人の子どもたちの名前を呼びながら、親しみ込めて話しかけたり遊びに誘ったりする。</li> <li>○子どもたちの様子に口癖やかたまりを配り、子どもたちの要求に応じたり不安を取り除けるような言葉をかけたり、スキンシップをとったりする。</li> <li>○子どもたちに保育者の居場所を知らせたり、子どもたちの見える場所で見守ったりする。</li> <li>○園生活の流れや生活の仕方を言葉や行動で具体的に伝える。</li> <li>○進級児がこれまでの園生活の経験を新入児に伝えられるような状況をつくる。</li> </ul> <p>◎保育者や友達に親しみの気持ちをもてるように</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○友達の名前を覚えやすいように、保育者が一日に何度も意図的に名前を呼ぶ。</li> <li>○保育者が一緒に遊びながら、側にいる子どもの遊びを伝えたり、子どもの共通点などを知らせたりする。進級児と新入児との交流を意図的に引き、互いにかかわりあう機会をもつことで親しみをもてるようにする。</li> <li>○クラス毎に集う場面と年齢で集う場面を、自然な流れの中で生活の中に取り込む。どちらの集う場面でも、友達と集うことが楽しいと感じられるように配慮する。</li> <li>○人の保育者が挨拶を取り合い、2クラスの間にもかかわり信頼関係がもてるようにする。</li> </ul> <p>◎一人一人が興味をもった遊びに取り組めるように</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○園内の自然物や生き物と出会い、春の心地よさが感じられるようにする。子どもたちと一緒に表庭に散歩に行き、花を摘んだり花束をつくったりダンゴ虫を見つけたりするなど、自然とかがわりゆとりとした時間の流れをつくる。</li> <li>○この時期は自分のしたい遊びに十分にに取り組めるように、時間を確保する。更に遊具の敷も好きな遊びが十分に出来るように配慮する。</li> </ul>

(出典：平成29年度4歳児4月月案)

4. 質の向上度の分析及び判定

分析項目 I 教育研究支援

質を維持している。

(記述及び理由)

国公立幼稚園会、幼児教育研究協議会、幼稚園PTA連合会等県内の幼稚園組織と、全国附属学校連絡協議会や九州附属学校連合会の組織を有効に活用し、保育実践が深まるよう研修体制が整備されている。



## IV 初等中等教育の領域に関する自己評価

## 1. 目的と特徴

幼児教育の目的を踏まえた取組を遂行し、幼児教育の充実と発展のために、次のように取り組んでいる。

- ① 質の高い保育の実践研究に取り組み、毎年保育研究会を実施してその成果を広め、公立幼稚園をリードする存在となっている。
- ② 全国附属幼稚園会幼児教育研究会や九州附属幼稚園が主催する研究集会に参加して、研究発表や提案を行っている。
- ③ 地域の幼児教育センターや子育てセンター的な役割を担うよう、市教委とも連携し、地域に開かれた幼稚園として運営している。

### 【想定する関係者とその期待】

- 全附連：文科省の講話や研修を受け最新情報を得る機会に恵まれており、それを踏まえた研究に取り組んでいる。全国の附属幼稚園が合同研究をすることで今日的な研究課題に取り組み、それぞれの研究結果を持ち寄ることで先進的な研究成果を共有する事ができる。各都道府県の公立幼稚園を始めとして幼保連携型認定こども園や保育所等のモデルとなりリードする。
- 大 学：大学職員が教材の提供を行ったり、行事等に園児に直接指導をしたりする事で、質の高い保育を行っている。
- 保護者：子どもや保護者が大学職員から直接指導を受ける事ができ、学ぶ楽しさを知り見識を深めることができる。
- 地 域：地域住人が園の行事に参加したり園児が地域の行事に参加したりして交流を深める。そのことが幼児教育の理解につながり、地域に開かれた教育課程の一端となる一方で、幼稚園の施設が、地域の災害避難地としての役割を果たすことが期待されている。
- 市教委：人事交流の成果として、市立幼稚園や小中学校とのつながりが深まり、教育の活性化が図れる。

## 2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

### 【優れた点】

- 研究実践に基づく、質の高い保育が維持されている。

### 【改善を要する点】

- 平成 27 年度からスタートした「子ども子育て支援制度」に基づき、①幼児期の学校教育として保育の質の向上や、②預かり保育を視野に入れた子育て支援、③地域の子育て支援拠点としての体制づくり等、教育の見直しを行っているところであるが、②預かり保育を視野に入れた子育て支援については附属小学校の行事に伴う預かり保育等のニーズもあり、今後更なる改善が求められる。

### 3. 観点ごとの分析及び判定

#### 分析項目 I 幼児教育

##### 観点1-1 入園調査方法

(観点に係る状況)

平成27年度からはじまった「子ども子育て支援制度」に対応すべく、社会や家庭のニーズにそって募集要項と調査の見直しを行った。(資料H-1-1-1~2)(中期計画番号53)

(水準)

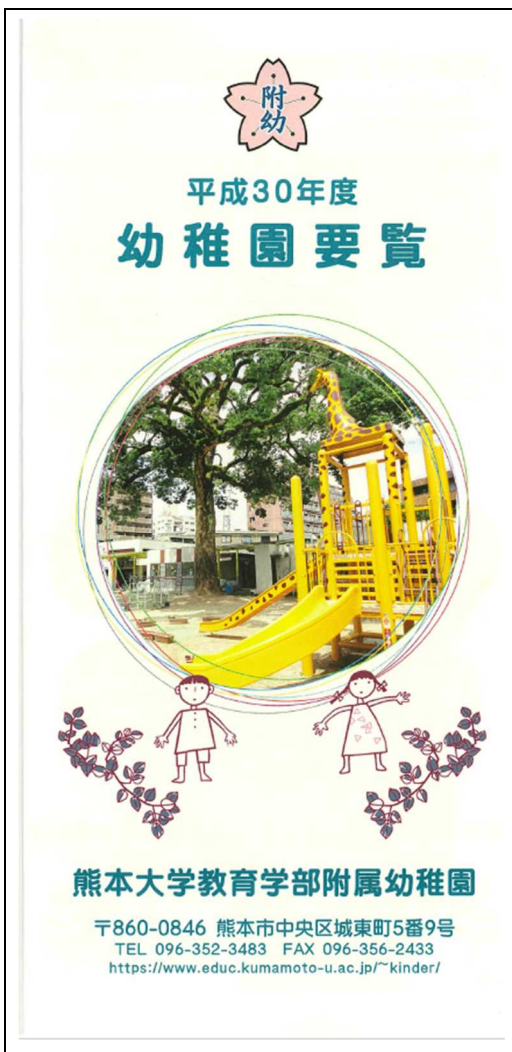
- ・期待される水準を上回る。

(判断理由)

幼稚園要覧で本園の教育について分かりやすく示していること、通園時の自動車の使用を認めて熊本市郊外からの入園も許可し、調査の方法も一部簡略化し子どもへの負担を軽減したこと等から、以前よりも門戸を開き公平性のある入園調査を行っている。

特に、幼稚園要覧では子育て支援への取組も明記しており、自家用車での通園以外にも平成27年度より、保育時間の20分延長、降園後の園庭開放、期末保護者会や行事等における預かり保育、夏休みの園庭開放等様々な取組を行っている。以前から長子等を通わせている保護者からは特に高い評価を得ている。

(資料H-1-1-1) 幼稚園要覧



(出典：幼稚園要覧 表紙)

## 熊本大学教育学部附属幼稚園の教育

未来を切り拓く幼児に、生きる力の基礎を培い、生涯にわたる人格形成の基礎を培う。



### 本園の使命と特色

本園は国立大学法人である熊本大学が設置した幼稚園であり、教育基本法や学校教育法、幼稚園教育要領に基づき、幼児教育を行うほか、教育学部に所属する機関として次のような使命をもつ。

- ① 熊本大学教育学部との連携をはかり、幼児教育の理論と実践に関する研究を行い、研究内容を公開することで、地域に貢献する。
- ② 教員養成における教育実習生に対する指導を行い、教員に求められる専門性や基本的認識を高める。
- ③ 地域の学校園や全国の附属学校園との研究交流を通して、幼児教育の推進に寄与する。

### めざす幼児像

健康で  
明るい  
子ども

考えたり  
工夫したり  
する子ども

自分の力を  
出しきって  
遊ぶ子ども

誰とでも  
かわりをもって  
遊ぶ子ども

思いやりの  
ある子ども



### 子育て支援への取り組み

- ・降園後や夏休みの園庭開放
- ・預かり保育（期末保護者会や附属行事等）
- ・未就園児体験登園
- ・保護者研修会や相談活動

### 保育時間

年齢	登園	弁当日時間 (月・火・水・金曜日)	午前中保育時間 (水曜日)
3歳児		13:10	11:30
4歳児	9:10まで	13:20	11:40
5歳児		13:30	11:50

### 在籍園児数 (平成30年4月現在)

年齢	組	園児数			合計
		男子	女子	計	
3歳児	ばら	19	11	30	30
	もも	13	14	27	
4歳児	さくら	12	15	27	54
	ひじ	14	10	24	
5歳児	きく	14	10	24	48
	合計	72	60	132	

### 主な年間行事

学期	月	行事 ※PTA主催行事
1学期	4月	始業式、交通指導、入園式、家庭訪問、身長・体重測定
	5月	歓迎遠足（親子）、定期健康診断、創立記念日、同窓会総会、緊急お迎え訓練
	6月	教育実習（4年次）、日曜保育参加日、保護者保育参加・参観、プール開き、附属小交流会（年長）
	7月	たなばた夏まつり、期末保護者会、終業式、宿泊保育（年長）、園庭開放（夏休み）
2学期	9月	始業式、交通指導、避難訓練、教育実習（2年次）、身長・体重測定
	10月	運動会、入園説明会、附属小交流会（年長）、※四附親睦交流会、芋堀り
	11月	開学記念日、オープン保育参観、親子遠足、避難訓練 表現活動発表会（年長）
	12月	※もちつき、期末保護者会、お楽しみ会、終業式
3学期	1月	始業式、交通指導、身長・体重測定、 表現活動発表会（年中）
	2月	豆まき、保護者保育参加・参観、表現活動発表会（年少）、附属小交流会（年長）、公開保育研究会、期末保護者会
	3月	送別遠足（親子）、ひなまつり、修了証書授与式、修了式

### 沿革の概要



- 大正 5年 5月 熊本県立豊川幼稚園創立、同時に熊本県女子師範学校代用附属幼稚園となる
- 昭和 6年 4月 元熊本県立手取幼稚園と豊川幼稚園を合併し千葉城幼稚園と称する
- 昭和 6年 7月 現在の園地に移転改築
- 昭和 15年 4月 熊本県に移管、熊本県女子師範学校附属幼稚園と改称
- 昭和 18年 4月 園に移管、熊本師範学校女子部附属幼稚園と改称
- 昭和 24年 5月 熊本大学熊本師範学校附属幼稚園と改称。大学の研究機関となる。
- 昭和 26年 4月 (現園名) 熊本大学教育学部附属幼稚園と改称
- 昭和 46年 7月 新園舎起工式（京町：旧附属看護学校跡に移転）
- 昭和 46年 12月 新園舎竣工
- 昭和 47年 1月 新園舎にて3学期保育開始
- 昭和 56年 5月 3歳児保育開始：1年保育年長（梅組）を廃止
- 昭和 61年 4月 創立70周年記念式典・記念事業
- 平成 8年 5月 創立80周年記念式典・記念事業
- 平成 13年 6月 園内安全確保のため警備員配置開始
- 平成 18年 2月 創立90周年記念式典・記念行事
- 平成 25年 9月 園舎改修のために熊本大学北キャンパスくすのき会館と附属特別支援学校すずかひの家に移転
- 平成 26年 4月 現新園舎完成
- 平成 28年 11月 創立100周年記念式典・記念事業
- 平成 29年 3月 創立100周年記念キリンさんすべり台設置



### 最近の研究のあゆみ

- 昭和61年度～平成6年度 「幼児にとって望ましい教育課程をもとめて」
- 平成7年度～9年度 「あたたかな人間関係を育む」  
(基本的生活習慣の形成の観点から研究)
- 平成10年度～14年度 「こころ豊かに生きる」  
～自然とともに育つ子どもをめざして～
- 平成15年度～18年度 「遊びの中の学びを再考する」
- 平成19年度～22年度 「幼児の遊び つなぎ・ひろげ・深まる」  
～他者とのしなやかなかわりを通して～
- 平成23年度～26年度 「感じる 考える 伝えあう子ども」  
～思考力の芽生えを培う～
- 平成27年度～29年度 「学びをつなぐ教育課程の創造」  
～遊び込む子どもから自ら学ぶ子どもへ～
- 平成30年度 「学びをつなぐ教育課程」  
～幼児期にふさわしい評価の在り方を探る～

(出典：幼稚園概要 裏面)

観点1-2 在園児数の状況

(観点に係る状況)

園児数は、平成27年度140名、平成28年度141名、平成29年度は139名であった。(資料H-1-2-1)充足率100パーセントに向け、平成29年度より3カ年計画で調査の改善や要項の見直しを進めている。(中期計画番号53)

(水準)

- ・期待される水準にある。

(判断理由)

充足率100パーセントに向け、教育学部と協議を重ね平成27年度の入園調査要項を大幅に見直し改善を図って以来充足率は、平成27年度が83.8パーセント、平成28年度が88.1パーセント、平成29年度が96.5パーセントと右肩上がりである。(資料H-1-2-2)

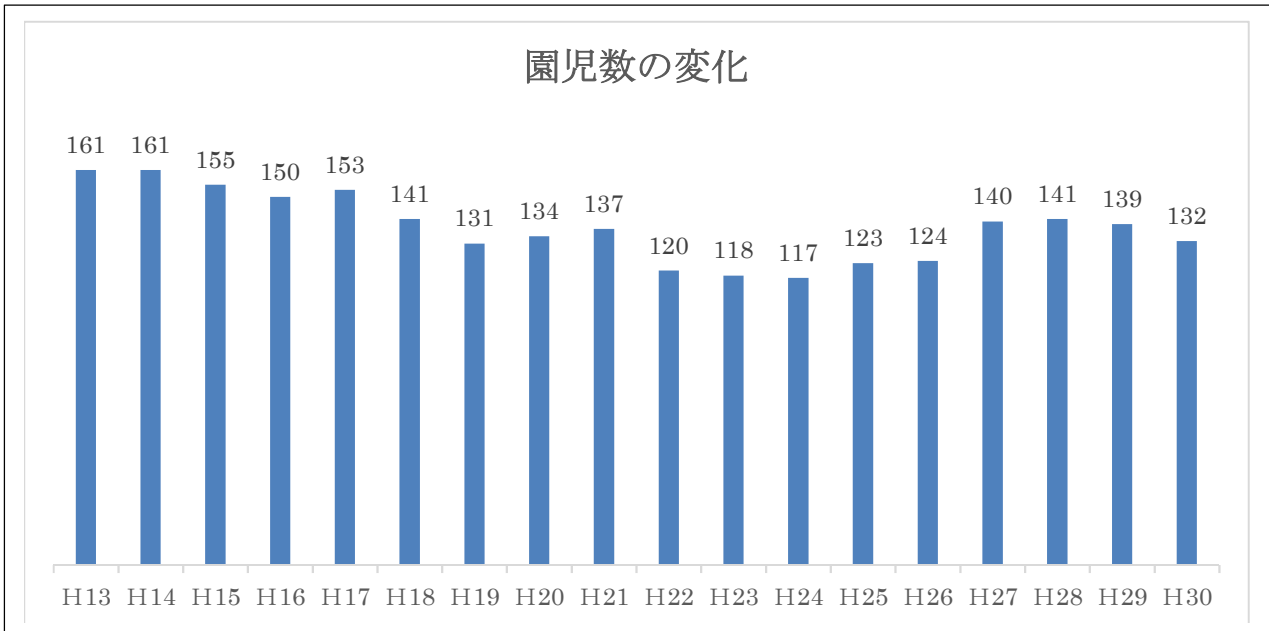
平成30年度の園児数は132人であるが、充足率100パーセントに向けて各年齢の定員を見直しているところであり、平成30年度の定員は満たしている。(資料H-1-2-3)

(資料H-1-2-1) 入園調査実施報告書

平成30年度入園調査実施報告書									
熊本大学教育学部附属幼稚園									
区分	3歳児			4歳児			計		
	男児	女児	計	男児	女児	計	男児	女児	計
募集人員(約)	15	15	30	13 (12)	12 (13)	25	28 (27)	27 (28)	55
応募者数	27	15	42	11	15	26	38	30	68
受験者数	26	14	40	11	15	26	37	29	66
受験辞退者	1	1	2	0	0	0	1	1	2
第一次合格者数	21	12	33	11	15	26	32	27	59
第二次合格者数(抽選)	18	—	18	—	—	—	18	—	18
合格者数	18	12	30	11	15	26	29	27	56
合格倍率	1.44	1.17	1.33	1.00	1.00	1.00	1.28	1.07	1.18
不合格者数	8	2	10	0	0	0	8	2	10
合格点(100点中)	70.0	67.5		67.5	60.0		67.5	60.0	
二次募集受験者									
二次募集合格者数									
最終合格者	18	12	30	11	15	26	29	27	56

(出典：入園調査実施報告書)

(資料H-1-2-2) 園児数の推移



※ 平成29年度以降の入園定員数変更の計画により平成30年度の定員は130名、その後平成31年度より140人である。

(出典：入園調査実施報告書)

(資料H-1-2-3) 定員の改訂について

#### ○入園定員について

平成28年度(現行の定員)

区分	定員				学級数
	3歳児	4歳児	5歳児	計	
3年保育	20名	20名	20名	60名	計5学級
2年保育		50名	50名	100名	
計	20名	70名	70名	160名	

↓

平成29年度(改訂1年目)

区分	定員				学級数
	3歳児	4歳児	5歳児	計	
3年保育	30名(+10)	20名	20名	70名(+10)	計5学級
2年保育		25名(-25)	50名	75名(+25)	
計	30名(+10)	45名(-25)	70名	145名(-15)	

↓

平成30年度(改訂2年目)

区分	定員				学級数
	3歳児	4歳児	5歳児	計	
3年保育	30名	30名(+10)	20名	80名(+10)	計5学級
2年保育		25名	25名(-25)	50名(-25)	
計	30名	55名(+10)	45名(-25)	130名(-15)	

↓

平成31年度(改訂3年目:完成)

区分	定員				学級数
	3歳児	4歳児	5歳児	計	
3年保育	30名	30名	30名(+10)	90名(+10)	計5学級
2年保育		25名	25名	50名	
計	30名	55名	55名(+10)	140名(+10)	

参考:  色つき部分は、前年度からの改訂部分で、( )内は増減数

(出典：文部科学省説明資料)

## 観点1-3 教育課程の編成

(観点に係る状況)

幼稚園教育要領にのっとり、特色ある教育課程が工夫されている。(資料H-1-3-1) また、幼小の滑らかな接続のために、アプローチカリキュラムを作成して実践を重ねるとともに、附属小学校のアプローチカリキュラムの作成と実践を促している。さらに、熊本県が開催する教育課程研究協議会等に進んで参加し研究を深めている。(中期計画番号 51, 53)

(水準)

- ・期待される水準を上回る。

(判断理由)

これまでの教育課程を基盤として、子どもを取り巻く環境の変化や学びのつながりを意識した特色ある教育課程が工夫されている。(資料H-1-3-1)

平成27年度から平成29年度まで「学びをつなぐ教育課程の創造」～遊び込む子どもから自ら学ぶ子どもへ～という研究テーマで実践研究を行った。思考力の育ちの道筋を捉えたそれまでの研究成果を生かし、幼児期の学びを小学校教育の学びへとつなぐ教育課程を作成し、さらなる実践を重ねている。

幼小連携については、子どもの交流を年に3回、教員の情報交換を年に5回行っている。熊本県が開催する教育課程研究協議会には毎年参加するだけでなく、本園の教育課程についての研究発表も行っている。

### (資料H-1-3-1) 教育課程の編成

#### 7 教育課程の編成

(1) 編成に向けて

①これまでの教育課程を基盤にする


- ・実際の研究で捉えた発達の手筋と、指導計画のねらいや内容をもとに、新教育課程を編成する。
- ・本園の教育課程は、3年保育課程3・4・5歳児と2年保育課程4・5歳児それぞれの教育課程を編成していた。しかし、4歳児クラスを進級、新入児混合クラスとする中で、新入児は進級児に影響を受け、4歳児終了時には、育ちがほぼ同じになることが捉えられた。そのため、5歳児の教育課程は、2・3年保育共通にする。

②子どもを取り巻く環境の変化を反映させる

- ・家庭保育から入園する子どもが減少し、保育園や認定こども園など集団生活を体験している子どもが増えた。

③3歳児から小学校への学びのつながりを意識する

- ・発達の手筋がより分かりやすいように、内容を「人・もの・生活」の3つの視点で考える。
- ・新幼稚園教育要領やそれに関する文部科学省等からの各種資料も参考にする。
- ・予測困難な時代を生きる子どもたちに、非認知能力などの必要な力を培う内容を織り込む。



(2) 期のねらいの検討

II 研究の実際とこれまでの教育課程をもとに、入園から修了までの育ちの手筋を捉え、育ちの節目と期のねらいを検討した。

(具体例) 4歳児3年保育の2学期

**平成27年度は・・・**

運動会を経験して9月から10月頃、友達とのかかわりが増え、気の合う友達が見つかり同じメンバーで継続して遊ぶ姿がみられた。11月から12月頃は気の合う友達同士で、どんぐり輪がしゲームづくりに試行錯誤して取り組むなど熱中して遊ぶ姿が見られた。そこで、期のねらいを次のようにした。

		II 園生活を楽しむ					III 自分の力を発揮しながら園生活を送る					
期	1	友達と遊ぶ	2	いろいろなことに興味をもつ	3	友達とかわって遊ぶ	4	熱中して遊ぶ	5	友達と遊びを進める		
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3

20.4.27

**平成28年度は・・・**

9月から10月は、虫とりや山滑り、色水づくりなど遊びに熱中する姿が多く見られた。11月から、好きな遊びを通して友達と出会い、友達関係を広げたり深めたりする姿が見られたので、期のねらいを次のように変えた。

		II 園生活を楽しむ					III 自分の力を発揮しながら園生活を送る					
期	1	友達と遊ぶ	2	いろいろなことに興味をもつ	3	熱中して遊ぶ	4	友達とかわって遊ぶ	5	友達と遊びを進める		
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3

28.11.6

**平成28年度末に検証した結果**

平成27年度と平成28年度に捉えた育ちの手筋の違い、期のねらいに関して検討した。4歳児は、一人一人の育ちの幅が大きいこともあり、2学期を2期に分けるより1つの期にして「友達とかわりながら熱中して遊ぶ」というねらいにした。

		II 園生活を楽しむ					III 自分の力を発揮しながら園生活を送る					
期	1	友達と遊ぶ	2	いろいろなことに興味をもつ	3	友達とかわりながら熱中して遊ぶ	4	友達と遊びを進める				
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3

29.3.31

(出典：研究紀要)

観点1-4 保育改善のための取組

(観点到に係る状況)

保育改善のために、園内研修の充実を図り積極的に研修会に参加している。(資料H-1-4-1)

また、平成29年度より国立教育政策研究所の研究指定を受け、研究主題の「学びをつなぐ教育課程～幼児期にふさわしい評価の在り方を探る～」の基、理論と実践を往還させ、精力的に取を行っている。

(中期計画番号51)

(水準)

- ・期待される水準を上回る。

(判断理由)

講師を招聘して研究会を開催したり、先進園の視察や研究会に参加したりして、園内研修の充実を図っている。(資料H-1-4-1)

また、国立教育政策研究所の研究指定を受けてからは、それまでの園内研究で取り組んできた教育課程の創造に加えて、評価の在り方に関する研究も並行して行う等、職員が一丸となって研究に励み教育課程やアプローチカリキュラム、評価指標(試案)の作成をして研究会で発表することを通して、さらなる保育の改善につなげている。(資料H-1-4-2)

さらに、各種研修会に参加し学んだことを園内で確実に復講したり、日ごろの園内研修以外にエピソード研修を行ったり、学年内で保育について学びあう時間を設定したり等、保育改善に向けた不断の努力をしているので、日々の保育に生かされている。

(資料H-1-4-1)

<p>平成26年度 園内研年間計画 (6月2日打ち) 平成26年6月17日(水)</p> <p>時間は原則として15:00～17:00</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日</th> <th>内 容</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①4/28(日)</td> <td>・副園長先生より講話 ・本園の研究について ・平成26年度の研究の方向について ・幼稚園教育課程学習発表会</td> <td>小園本大学 「幼児教育指導員」担当 4/17(水) (園長) 1 4/24(水) (大野) 1 5/1(水) (浅尾) 1 5/8(水) (若水) 1</td> </tr> <tr> <td>②6/7(水) (14:00-15:00)</td> <td>・石川先生より講話 (保育の基礎・基本について学ぶ)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③6/14(水)</td> <td>・園内の園内研(講話)からの学びを振り返る ・指導計画の作成について(高橋) ・本園の研究の進捗状況の報告と今後の課題について(大野) ・本園の研究について ・これまでの研究の成果について(講話)、整理する (子どもたちの見守りや表現力を育む「園児の成長」や「保育者の役割」の表のまとめや言葉の使いかたなどについて)</td> <td>☆4年度実習 5/29-6/11 ・公開研1次園内発表</td> </tr> <tr> <td>④6/20(水) (16:00-17:00)</td> <td>・これまでの研究の成果について(講話)、整理する (子どもたちの見守りや表現力を育む「園児の成長」や「保育者の役割」の表のまとめや言葉の使いかたなどについて) ・研究発表資料の整理</td> <td>☆4年度実習 5/29-6/11 ・公開研1次園内発表</td> </tr> <tr> <td>⑤6/17(水)</td> <td>・これまでの研究の成果について(講話)、整理する ・1学期の保育実践をまとめる(講話)</td> <td>☆4年度実習 5/29-6/11 ・公開研1次園内発表</td> </tr> <tr> <td>⑥6/24(水)</td> <td>・研究発表準備会(自己・研究のまとめ) ・これまでの研究の成果について(講話)、整理する</td> <td>☆4年度実習 5/29-6/11 ・公開研1次園内発表</td> </tr> <tr> <td>⑦6/29(水)</td> <td>・研究発表に向けての保育実践の振り返り ・研究発表のページ作り ・各自の発表</td> <td>☆4年度実習 5/29-6/11 ・公開研1次園内発表</td> </tr> <tr> <td>夏の園内研</td> <td>・1学期の保育実践をまとめる、整理する。</td> <td>☆4年度実習 5/29-6/11 ・公開研1次園内発表</td> </tr> <tr> <td>8/4～8</td> <td>・研究発表準備会に向けて</td> <td>☆4年度実習 5/29-6/11 ・公開研1次園内発表</td> </tr> <tr> <td>8/18・19</td> <td>・11月の公開保育研究会に向けて ・資料や準備事項について話し合う</td> <td>☆4年度実習 5/29-6/11 ・公開研1次園内発表</td> </tr> </tbody> </table>	日	内 容	備 考	①4/28(日)	・副園長先生より講話 ・本園の研究について ・平成26年度の研究の方向について ・幼稚園教育課程学習発表会	小園本大学 「幼児教育指導員」担当 4/17(水) (園長) 1 4/24(水) (大野) 1 5/1(水) (浅尾) 1 5/8(水) (若水) 1	②6/7(水) (14:00-15:00)	・石川先生より講話 (保育の基礎・基本について学ぶ)		③6/14(水)	・園内の園内研(講話)からの学びを振り返る ・指導計画の作成について(高橋) ・本園の研究の進捗状況の報告と今後の課題について(大野) ・本園の研究について ・これまでの研究の成果について(講話)、整理する (子どもたちの見守りや表現力を育む「園児の成長」や「保育者の役割」の表のまとめや言葉の使いかたなどについて)	☆4年度実習 5/29-6/11 ・公開研1次園内発表	④6/20(水) (16:00-17:00)	・これまでの研究の成果について(講話)、整理する (子どもたちの見守りや表現力を育む「園児の成長」や「保育者の役割」の表のまとめや言葉の使いかたなどについて) ・研究発表資料の整理	☆4年度実習 5/29-6/11 ・公開研1次園内発表	⑤6/17(水)	・これまでの研究の成果について(講話)、整理する ・1学期の保育実践をまとめる(講話)	☆4年度実習 5/29-6/11 ・公開研1次園内発表	⑥6/24(水)	・研究発表準備会(自己・研究のまとめ) ・これまでの研究の成果について(講話)、整理する	☆4年度実習 5/29-6/11 ・公開研1次園内発表	⑦6/29(水)	・研究発表に向けての保育実践の振り返り ・研究発表のページ作り ・各自の発表	☆4年度実習 5/29-6/11 ・公開研1次園内発表	夏の園内研	・1学期の保育実践をまとめる、整理する。	☆4年度実習 5/29-6/11 ・公開研1次園内発表	8/4～8	・研究発表準備会に向けて	☆4年度実習 5/29-6/11 ・公開研1次園内発表	8/18・19	・11月の公開保育研究会に向けて ・資料や準備事項について話し合う	☆4年度実習 5/29-6/11 ・公開研1次園内発表	<p>8/26・27</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開保育研究会研究発表プレゼンテーション発表</li> <li>・2学期の実践に向けて</li> <li>・研究発表の印刷物準備(夏休み中に)</li> </ul> <p>9月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究発表の校正</li> <li>・公開保育研究会に向けて準備を充実させる</li> </ul> <p>午前中( ) 園児の保育研 午後保育研究会</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日</th> <th>内 容</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10月7日(水)</td> <td>午前中( ) 園児の保育研 午後保育研究会</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14日(水)</td> <td>午前中( ) 園児の保育研 午後保育研究会</td> <td>・公開研2次園内発表</td> </tr> <tr> <td>21日(水)</td> <td>・研究発表資料準備</td> <td></td> </tr> <tr> <td>28日(水)</td> <td>・進捗、作業など資料作成</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11月4日(水)</td> <td>・印刷 製本</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11/8(土)</td> <td>公開保育研究会</td> <td>入園説明会 1029</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>28日(水)</td> <td>熊本大学シンポジウムに向けての発表</td> <td>熊本県立立派園研究会大会 (発表) 11/28(水)～22(土)</td> </tr> <tr> <td>26日(水)</td> <td>シンポジウムに向けて</td> <td>入園発表(12/9-12/23)</td> </tr> <tr> <td>1月6日(水)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>20日(水)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>27日(水)</td> <td>熊本大学シンポジウム</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2月28日(土)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3月18日(水)</td> <td>・次年度の研究について</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※印は、変更事項</p>	日	内 容	備 考	10月7日(水)	午前中( ) 園児の保育研 午後保育研究会		14日(水)	午前中( ) 園児の保育研 午後保育研究会	・公開研2次園内発表	21日(水)	・研究発表資料準備		28日(水)	・進捗、作業など資料作成		11月4日(水)	・印刷 製本		11/8(土)	公開保育研究会	入園説明会 1029	12月			28日(水)	熊本大学シンポジウムに向けての発表	熊本県立立派園研究会大会 (発表) 11/28(水)～22(土)	26日(水)	シンポジウムに向けて	入園発表(12/9-12/23)	1月6日(水)			20日(水)			27日(水)	熊本大学シンポジウム		2月28日(土)			3月18日(水)	・次年度の研究について		<p>平成26年度 職員研修計画</p> <p>《目的》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の見識を広げ、日々の保育の充実に努める。</li> <li>・多様な課題を解決することで、保育者の人間力を高める。</li> </ul> <p>《方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研修の中に、時間を設ける。</li> <li>・父兄の会の講演を教職員も一緒に聞く。</li> </ul> <p>《内容》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月 日</th> <th>時 間</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月13日(水)</td> <td>14:00～ 16:00</td> <td>・同僚会給食で同僚会長の講話を聞く。</td> </tr> <tr> <td>5月20日(水)</td> <td>15:00～ 15:30</td> <td>・特別支援教育の資料の読み合わせ</td> </tr> <tr> <td>5月20日(水)</td> <td>15:30～ 14:30</td> <td>・個別指導や個別支援計画について</td> </tr> <tr> <td>5月30日(金)</td> <td>14:30～ 15:30</td> <td>・チャットリストについて</td> </tr> <tr> <td>5月30日(金)</td> <td>14:30～ 15:30</td> <td>・特別支援の教員の方より、人工知能について講話を聞く。</td> </tr> <tr> <td>6月17日(水)</td> <td>14:30～ 15:30</td> <td>・特別支援の視点で午前中に行なわれる園児の様子を見ていただき、午後講話に関するアドバイスを受ける。</td> </tr> <tr> <td>8月5日(水)</td> <td>9:00～ 10:00</td> <td>・熊本市人権教育推進員より、人権教育の視点で講話を聞く。</td> </tr> <tr> <td>9月16日(水)</td> <td>14:30～ 15:30</td> <td>・特別支援に関する講話を聞く。(熊本大学特別支援教育学科の先生)</td> </tr> <tr> <td>11月18日(水)</td> <td>14:30～ 15:30</td> <td>・体罰ネットを利用して、特別支援が必要な子どもたちの実態を把握する。(特別支援学校の先生)</td> </tr> <tr> <td>1月20日(水)</td> <td>15:30～ 17:00</td> <td>・保育者見守り(観察記録)か ・施設長や(ウエルカム)・立派園(保育者)か ・園長が特別支援学校校長から ・6月に観望したい気になる子どもたちの家庭を見ていただき、指導を受ける。</td> </tr> </tbody> </table> <p>★「警報より防犯不審者侵入に関する講話」や「園児より遊園地の仕方や避難訓練の在り方の講話」も聞きたい。 ★熊本県教育委員会主催の幼稚園(親玉)や小学校の研究発表会へ参加したい。</p>	月 日	時 間	内 容	5月13日(水)	14:00～ 16:00	・同僚会給食で同僚会長の講話を聞く。	5月20日(水)	15:00～ 15:30	・特別支援教育の資料の読み合わせ	5月20日(水)	15:30～ 14:30	・個別指導や個別支援計画について	5月30日(金)	14:30～ 15:30	・チャットリストについて	5月30日(金)	14:30～ 15:30	・特別支援の教員の方より、人工知能について講話を聞く。	6月17日(水)	14:30～ 15:30	・特別支援の視点で午前中に行なわれる園児の様子を見ていただき、午後講話に関するアドバイスを受ける。	8月5日(水)	9:00～ 10:00	・熊本市人権教育推進員より、人権教育の視点で講話を聞く。	9月16日(水)	14:30～ 15:30	・特別支援に関する講話を聞く。(熊本大学特別支援教育学科の先生)	11月18日(水)	14:30～ 15:30	・体罰ネットを利用して、特別支援が必要な子どもたちの実態を把握する。(特別支援学校の先生)	1月20日(水)	15:30～ 17:00	・保育者見守り(観察記録)か ・施設長や(ウエルカム)・立派園(保育者)か ・園長が特別支援学校校長から ・6月に観望したい気になる子どもたちの家庭を見ていただき、指導を受ける。
日	内 容	備 考																																																																																																															
①4/28(日)	・副園長先生より講話 ・本園の研究について ・平成26年度の研究の方向について ・幼稚園教育課程学習発表会	小園本大学 「幼児教育指導員」担当 4/17(水) (園長) 1 4/24(水) (大野) 1 5/1(水) (浅尾) 1 5/8(水) (若水) 1																																																																																																															
②6/7(水) (14:00-15:00)	・石川先生より講話 (保育の基礎・基本について学ぶ)																																																																																																																
③6/14(水)	・園内の園内研(講話)からの学びを振り返る ・指導計画の作成について(高橋) ・本園の研究の進捗状況の報告と今後の課題について(大野) ・本園の研究について ・これまでの研究の成果について(講話)、整理する (子どもたちの見守りや表現力を育む「園児の成長」や「保育者の役割」の表のまとめや言葉の使いかたなどについて)	☆4年度実習 5/29-6/11 ・公開研1次園内発表																																																																																																															
④6/20(水) (16:00-17:00)	・これまでの研究の成果について(講話)、整理する (子どもたちの見守りや表現力を育む「園児の成長」や「保育者の役割」の表のまとめや言葉の使いかたなどについて) ・研究発表資料の整理	☆4年度実習 5/29-6/11 ・公開研1次園内発表																																																																																																															
⑤6/17(水)	・これまでの研究の成果について(講話)、整理する ・1学期の保育実践をまとめる(講話)	☆4年度実習 5/29-6/11 ・公開研1次園内発表																																																																																																															
⑥6/24(水)	・研究発表準備会(自己・研究のまとめ) ・これまでの研究の成果について(講話)、整理する	☆4年度実習 5/29-6/11 ・公開研1次園内発表																																																																																																															
⑦6/29(水)	・研究発表に向けての保育実践の振り返り ・研究発表のページ作り ・各自の発表	☆4年度実習 5/29-6/11 ・公開研1次園内発表																																																																																																															
夏の園内研	・1学期の保育実践をまとめる、整理する。	☆4年度実習 5/29-6/11 ・公開研1次園内発表																																																																																																															
8/4～8	・研究発表準備会に向けて	☆4年度実習 5/29-6/11 ・公開研1次園内発表																																																																																																															
8/18・19	・11月の公開保育研究会に向けて ・資料や準備事項について話し合う	☆4年度実習 5/29-6/11 ・公開研1次園内発表																																																																																																															
日	内 容	備 考																																																																																																															
10月7日(水)	午前中( ) 園児の保育研 午後保育研究会																																																																																																																
14日(水)	午前中( ) 園児の保育研 午後保育研究会	・公開研2次園内発表																																																																																																															
21日(水)	・研究発表資料準備																																																																																																																
28日(水)	・進捗、作業など資料作成																																																																																																																
11月4日(水)	・印刷 製本																																																																																																																
11/8(土)	公開保育研究会	入園説明会 1029																																																																																																															
12月																																																																																																																	
28日(水)	熊本大学シンポジウムに向けての発表	熊本県立立派園研究会大会 (発表) 11/28(水)～22(土)																																																																																																															
26日(水)	シンポジウムに向けて	入園発表(12/9-12/23)																																																																																																															
1月6日(水)																																																																																																																	
20日(水)																																																																																																																	
27日(水)	熊本大学シンポジウム																																																																																																																
2月28日(土)																																																																																																																	
3月18日(水)	・次年度の研究について																																																																																																																
月 日	時 間	内 容																																																																																																															
5月13日(水)	14:00～ 16:00	・同僚会給食で同僚会長の講話を聞く。																																																																																																															
5月20日(水)	15:00～ 15:30	・特別支援教育の資料の読み合わせ																																																																																																															
5月20日(水)	15:30～ 14:30	・個別指導や個別支援計画について																																																																																																															
5月30日(金)	14:30～ 15:30	・チャットリストについて																																																																																																															
5月30日(金)	14:30～ 15:30	・特別支援の教員の方より、人工知能について講話を聞く。																																																																																																															
6月17日(水)	14:30～ 15:30	・特別支援の視点で午前中に行なわれる園児の様子を見ていただき、午後講話に関するアドバイスを受ける。																																																																																																															
8月5日(水)	9:00～ 10:00	・熊本市人権教育推進員より、人権教育の視点で講話を聞く。																																																																																																															
9月16日(水)	14:30～ 15:30	・特別支援に関する講話を聞く。(熊本大学特別支援教育学科の先生)																																																																																																															
11月18日(水)	14:30～ 15:30	・体罰ネットを利用して、特別支援が必要な子どもたちの実態を把握する。(特別支援学校の先生)																																																																																																															
1月20日(水)	15:30～ 17:00	・保育者見守り(観察記録)か ・施設長や(ウエルカム)・立派園(保育者)か ・園長が特別支援学校校長から ・6月に観望したい気になる子どもたちの家庭を見ていただき、指導を受ける。																																																																																																															

(出典：園内研修の記録)



(資料H-1-4-2) 研究計画

4 研究計画			
	実施時期	研究内容, 研究方法, 成果の公開等	期待される成果等
平成29年度	一学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>※年間、火曜日の定例園内研究会で研究を進める。</li> <li>・評価についての理論研修 →文献研究、先行研究、講師招聘など</li> <li>・平成28年度に編成した教育課程の実践・検証 →年齢別の保育研究(計3回)</li> <li>・文科省主催幼児教育担当会の復講</li> <li>・アプローチカリキュラムの小学校との連携</li> <li>・研究推進委員会(5、6、8月)を開催し、評価について学ぶ。</li> <li>・平成27・28年度の研究紀要を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期における評価の在り方を学ぶ。</li> </ul>
	二学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢別の保育研究(3回)を行い、新たに編成した教育課程をもとに、環境の構成や保育者の援助についての評価・改善の在り方を探る。</li> <li>・公開保育研究会の開催(講師:山梨大学教育学部教授 加藤繁美 先生)</li> <li>・研究推進委員会(10、11月)を開催し、評価の在り方を探る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新教育課程を公開することで他園の教育課程の編成に寄与</li> </ul>
	三学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に開いた研修会の実施 →幼児教育の専門家を招聘</li> <li>・幼稚園教育要領の趣旨等の実現に向けた評価方法の試案を作成する。</li> <li>・研究推進委員会(1、3月)</li> <li>・研究協議会(研究成果発表会)にて中間報告をする。</li> <li>・中間報告書の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの育ちから保育者の援助を評価する方法の試案作成</li> </ul>
平成30年度	一学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成した評価方法の実践、検証。</li> <li>・研究推進委員会(5、6、8月)を開催し、実践した評価指標を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価指標の試案を実践検証</li> </ul>
	二学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成した評価方法を実践、検証</li> <li>・保育研究協議会を開催する。</li> <li>・研究推進委員会(10、11月)を開催し、実践した評価指標の再検討を重ねる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育研究協議会で評価指標を公開し、参加者と検討を加える。</li> </ul>
	三学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究協議会(研究成果発表会)にて研究成果を報告する。</li> <li>・最終報告書を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領の趣旨等の実現に向けた評価方法の明確化、評価指標の作成など</li> </ul>

(出典：国立教育政策研究所教育課程研究提出の教育課程研究指定校事業実施計画書)

観点1-5 研究成果が客観的に示され、またそれが公表されているか。

(観点に係る状況)

研究成果は、本園の研究発表会や各種研究会にて発表している。(資料H-1-5-1)

保護者や学校関係者に対しては、保護者会や学校評議員会で説明し、理解や協力を得ている。成果物は学校評議員に配付説明し、公表し、学校評価を経営に生かしている。(中期計画番号 51, 53)

(水準)

- ・期待される水準を上回る。

(判断理由)


毎年、公開保育研究会を開催し研究紀要にまとめているが、研究成果は、アンケート集計や意識調査の記述等のエビデンスをもとに客観的事実から得られた成果を示している。

平成 29 年度に国立教育政策研究所の研究指定を受け、幼児教育としては全国的に先駆けた評価についての研究を2カ年にわたり取り組んでいる。その成果については、国立教育政策研究所主催の発表会で報告するほか、全附連や九附連の幼稚園部会、熊本県教示教育理解推進事業として行われた熊本県研究協議会、九州地区の保育士・幼稚園教諭養成大学のシンポジウムで発表する等広く公表している。

保護者や地域、外部評価者にも公開しており、その結果を経営に反映させている。

(資料H-1-5-1) 研究紀要もくじ

もくじ	
はじめに.....	1
<b>I 研究の概要</b>	
1 研究テーマ.....	4
2 研究テーマについて.....	4
3 研究の目的.....	5
4 研究の計画.....	6
5 研究の方法.....	6
<b>II 研究の実際</b>	
1 短期指導計画(週指導計画案)の見直し.....	9
2 長期指導計画(月指導計画案)の検討.....	14
3 発達の道筋の明確化.....	15
4 エピソード(実践記録)の集積.....	16
5 園内保育研究の工夫.....	17
6 「打ち合わせ」の見直し.....	19
7 教育課程の編成	
(1) 編成に向けて.....	20
(2) 期のねらいの検討.....	21
(3) ねらいと内容の検討.....	22
8 アプローチカリキュラムの作成	
(1) 作成に向けて.....	23
(2) 作成の実際.....	23
<b>III 成果と課題</b>	
1 研究の成果.....	26
2 今後の課題.....	26
3 教育課程・アプローチカリキュラム.....	27
<b>IV 資料編(指導計画と実践記録)</b>	
1 3歳児編.....	34
2 4歳児編.....	78
3 5歳児編.....	122
おわりに.....	166



お泊まり保育

— 2 —

(出典：研究紀要)

#### 4. 質の向上度の分析及び判定

##### 分析項目 I 幼児教育

大きく改善、向上している

(記述及び理由)

実践研究に対するたゆまぬ努力により「幼児教育についての研究を深め、教育の質の向上を図り、国公立幼稚園をリードする」という本園の使命を十分に果たしている。教育基本法、並びに学校教育法に位置づけられた学校教育としての幼稚園教育について、その目的や意義について、保護者、教育実習生、大学生に対して何度も講話を行うために、教員一人一人の自覚も高く、幼児教育の振興に広く貢献している。

教職員の異動はあるものの、ベテラン教諭や本園での経験を重ねた教諭の積極的な姿勢が、学び続ける教職員像としてのモデルとなり、協働的な学校集団が形成されているので、園内での組織的な保育活動により、担任による保育の差が生じにくく、どのクラスも同様に質の高い保育が維持され教育目標が達成される。さらに、園内にとどまらず交流人事等でひいては公立学校における教職員像のモデルともなっている。

## V 男女共同参画の領域に関する自己評価

## 1. 目的と特徴

男女共同参画社会の実現をめざし、次の事に取り組んでいる。

- ①職員の男女構成の平均化を図る。
- ②男女の更衣室やトイレの整備を行う。
- ③子育てにおける男女共同参画について、PTA研修会等を行い、啓発を図る。

### [想定する関係者とその期待]

- 大 学：子育てサポート企業として認定された熊本大学のノウハウを活用したり男女共同参画推進コーディネーターである大学職員の指導を受けたりすることで、本園の職員や保護者にとって学ぶ機会とする。
- 保護者：保護者が子育てに喜びや自信をもつこと、また育っていく喜びや楽しみを感じられるような工夫をすることで、「親と子の育ちの場」としての役割を果たす。また、おやじの会を中心にした、父親の積極的な子育て参加について支援する。
- 地 域：地域住人が園の行事に参加したり園児が地域の行事に参加したりして交流を深めることで、これまで地域の活動にあまり参加していなかった就労中の男女や退職後の世代等の参加が期待できる。
- 市教委：人事交流を通して、職員の男女構成の平均化を図る。

## 2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

### 【優れた点】

- 施設、設備面で女性にとって働きやすい職場の環境が整っている。

### 【改善を要する点】

- 教育実習生のための男女別の更衣室や控え室の確保が課題である。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目Ⅰ 目的に照らして、男女共同参画に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること

観点1-1 目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

(観点到係る状況)

男女共同参画推進担当を中心に、組織の改善を検討している。

(中期計画番号 54、55)

(水準)

・期待される水準にある。

(判断理由)

男女比は、平成26年度に4:10であったが、平成29年度は1:13となり職場における男性職員の数は減少した。(資料:I-1-1-1)

(資料I-1-1-1) 担任・保育補助等一覧

7 平成29年度 担任・保育補助等一覧					
学級担任			保育補助		
5歳	きく組	女性	・保育全般 (計画、実践、記録)	女性	・保育補助 ・環境整備
	ふじ組	女性		女性	
4歳	さくら組	女性	・保育室の管理、整備 ・家庭との連絡、連携	男性	・個別指導 ・牛乳給食
	もも組	女性		女性	
3歳	ばら組	女性	・保育研究・実習生の養成	女性	・保育記録
		女性		女性	
養護教諭		女性	・養護・環境衛生		
給食飼育		女性	・給食・飼育		
事務		女性 男性	・事務全般		

(出典：教育要覧より職員一覧表)

観点1-2 計画に基づいた活動が適切に実施されているか

(観点到係る状況)

職員の男女構成比適正化を図り、更衣室やトイレの整備を行っている。

(中期計画番号 54、55)

(水準)

・期待される水準にある。

(判断理由)

園舎の改築を大きなきっかけとして、少しずつ改善されている。

観点1-3 男女共同参画基本方針等の趣旨に照らし、男女共同参画の取組を実施しているか。

(観点到係る状況)

男女共同参画教育方針に基づき、職場での取り組み、家庭支援、地域啓発を行っている。

(中期計画番号 54、55)

(水準)

・期待される水準にある。

(判断理由)

男女に関わらず個人の個性や能力に適した業務の配置を行い、組織の活性化を図っている。また、「ママパパほっとタイム」等、保護者向け子育て支援研修を行っている。また、PTAによる呼びかけで男性保護者の「おやじの会」への参加率が増加傾向にあり、子育てに主体的に取り組もうとする父親の意識が向上していることが伺える。

#### 4. 質の向上度の分析及び判定

分析項目Ⅲ 目的に照らして男女共同参画に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること

質を維持している

(記述及び理由)

男女の特性を生かし、効率的に運営ができるよう園務分掌を工夫している。また、PTAによる「おやじの会」や「女性の会」等、行事の運営等では非常に協力的である。